YAMAHA

Marine Jet
SuperJet

取扱説明書

⚠マリンジェットをご使用になる前に
取扱説明書をよくお読みください。

YAMAHA MOTOR CO., LTD.
F4D-28199-01

マリンジェットをご使用になる前に取扱説明書をよくお読みください。マリンジェットを売却される場合は取扱説明書を添付してください。

JJU35293

お客様へ

ヤマハマリンジェットをお買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書ではマリンジェットの正しい取り扱い方法と簡単な点検整備について説明してあります。
取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
マリンジェットの使い方を十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みください。またマリンジェットに乗るときは本書を携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全警告記号です。人身傷害の危険性がある場合にこの記号で注意を喚起しています。この記号に続く全ての安全事項を守り、傷害や死亡事故を防止してください。

JWJ00072

⚠警　告

取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

JCJ00092

注　意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

JJU40902

仕様の変更などにより図や内容が製品と一部異なる場合がありますのでご了承ください。
本書は大切に保管し、マリンジェットの転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。マリンジェットに乗るときは、本書を防水バッグに入れて携帯してください。
整備手帳には保証書とともに定期点検整備の項目、および定期点検記録簿が入っております。マリンジェットの維持管理にご活用ください。
保証書はよくお読みいただき裏面のヤマハ取扱店名等をご確認のうえ大切に保存してください。
ご不明な点や不具合なところがありましたらお早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談ください。ヤマハ取扱店ではお客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

目次

製造番号と重要なラベル 1
製造番号 1
艇体番号 1
艇体識別番号 1
エンジン番号 1
製造日付ラベル 2
重要なラベル 3
警告ラベル 4
その他のラベル 6

安全情報 7
マリンジェットの使用にあたり 7
航走について 8
操船について 9
注意事項について 10
マリンジェットの特性について 11
船舶規則 12
船舶検査 12
法定備品 12
航行区域 12
他の遵守事項 14

各部の名称 15
マリンジェットに関する用語 15
各部の名称と位置 16

操船機能の操作 18
操船機能 18
エンジン停止スイッチ 18
緊急エンジン停止スイッチ 18
エンジン始動スイッチ 18
スロットルレバー 19
ステアリングシステム 19
ステアリングポール 19
燃料コック 19
チョークノブ 20
冷却水点検孔 20
水分離器 21
オーバーヒート警告装置 21

装備品の操作 22
装備品 22
フード 22
バウロープホール 23
スターンロープホール 23
フード裏物入れ（ポーチ） 23
フード上側物入れ 24

運航時の取扱い 25
燃料とオイルについて 25
燃料 25
エンジンオイル 25
ガソリンとエンジンオイルの混合 25
混合燃料の給油 25
ビルジの排水 26
水上でのビルジ排水 26
トレーラーでの運搬 27

初めて使用するときは 28
慣らし運転 28

使用前の点検 29
使用前点検チェックリスト 29
使用前点検チェックポイント 31
進水前の点検 31
進水後の点検 35

操船するときは 36
操船するときは 36
使用の前に 36
操船の前に 36
操船姿勢 36
マリンジェットの進水 37
出航・乗船時のエンジンの始動 37
エンジンの停止 38
マリンジェットから離れるとき 38
マリンジェットの航走 39
マリンジェットの旋回 39
マリンジェットの停船 40
出航 41
転覆したときには 43
マリンジェットの着岸 44
海藻が密生している場所での航走 44

陸揚げしたときには 44

保管するときは 45
使用後のお手入れ 45
エンジン冷却経路の水洗 45
艇体各部の水洗 46
バッテリーのお手入れ 46
長期保管 48
各部の洗浄 48
各部の潤滑 48
各部の防錆 49

整備と点検 51
整備と点検 51
工具セット 51
ステアリング操作荷重の調整 51
ジェットノズル切れ角の調整 52
定期点検表 54
グリスポイント 55
燃料フィルターの点検 55
スパークプラグの点検 55
チョークケーブルの調整 56
キャブレターの調整 56

仕様諸元 58
仕様諸元 58

万一のときは 59
トラブルシューティング 59
故障診断表 59
緊急時の対応方法 61
ジェットインテークとインペラの清掃 61
ブースターケーブルの使用 62
ヒューズの交換 62
マリンジェットの曳航 63
水没時の処置 63

附録 65
お客様ご相談窓口のご案内 65

索引 66

製造番号と重要なラベル

JJU36452

製造番号

ヤマハ取扱店に純正部品を注文するときのために、艇体番号、艇体識別番号、エンジン番号を以下の空欄に控えておくことをお奨めします。また、マリンジェットが盗難にあったときのために、これらの番号を別の場所にも控えておくことをお奨めします。

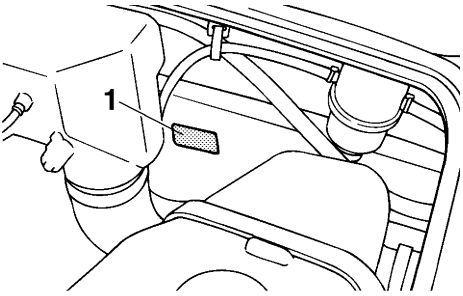
JJU30272

艇体番号

艇体番号はエンジンルームの内壁に貼り付けられたプレートに記載されています。（フードの脱着方法については 22 ページを参照ください。）

モデル：

● MJ—SJ700



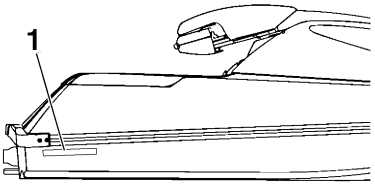
1 艇体番号貼付場所

ヤマハ発動機株式会社		
型式	名称	
製造番号		定員　1名
MADE IN JAPAN		

JJU36461

艇体識別番号

艇体識別番号は艇体の右舷側に貼り付けられたラベルに記載されています。



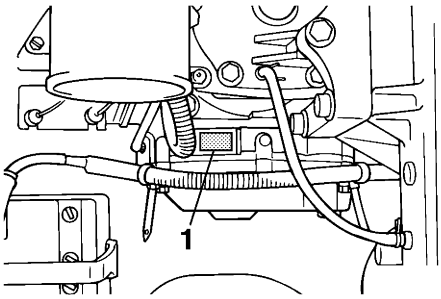
1 艇体識別番号貼付場所

JP-YAM□□□□□□□□

JJU40641

エンジン番号

エンジン番号はエンジンユニットに貼り付けられたプレートに記載されています。（フードの脱着方法については 22 ページを参照ください。）



1 エンジン番号貼付場所

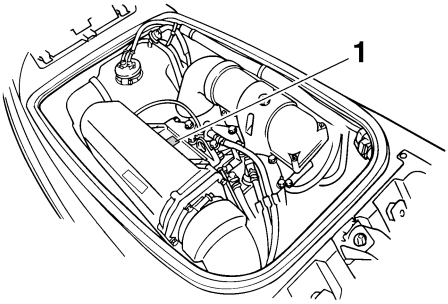
YAMAHA □□□□ □ □□□

YAMAHA MOTOR CO., LTD.
MADE IN JAPAN
PAYS D'ORIGINE JAPON

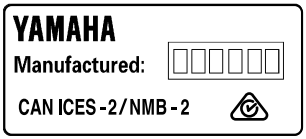
JJU41742

製造日付ラベル

製造日付ラベルはマフラーに貼り付けられています。(フードの脱着方法については22ページを参照ください。)



1 製造日付ラベル貼付場所

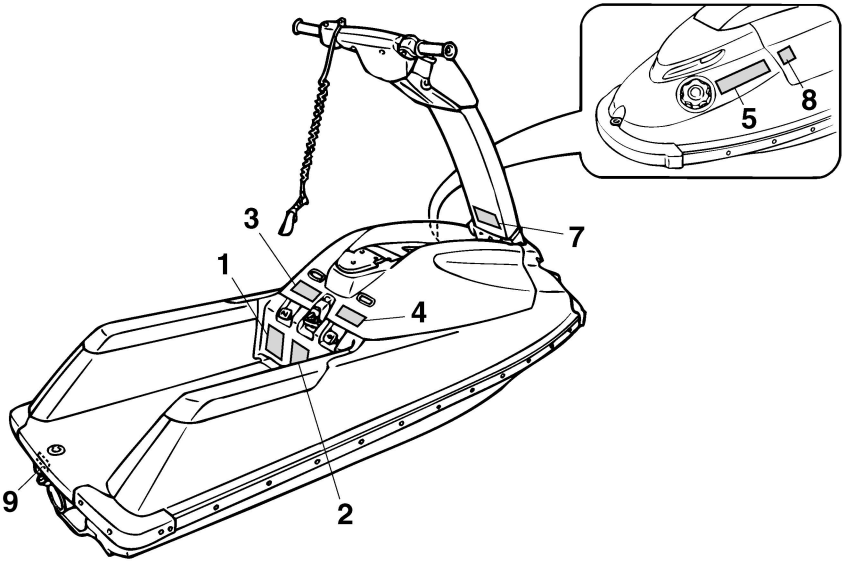


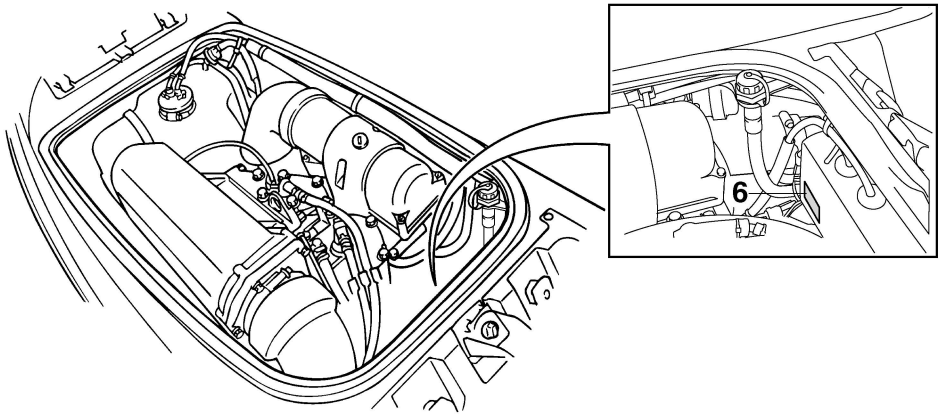
製造番号と重要なラベル

JJU30453

重要なラベル

マリンジェットをご使用になる前にすべてのラベルをよく読んでください。ご不明な点があれば、ヤマハ取扱店にご相談ください。





JJU35914

警告ラベル

警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。

1

⚠ 警 告

マリンジェットが衝突した場合、他の船舶に比べて**死傷する**率が高くなります。

次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の**見張りを怠らないでください。**視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。

- **気を抜かないで航走してください。**遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。
  - 他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。
  - 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
  - 急旋回等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。
  - 浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。

（右のラベルに続く）

GM6-641B2-61

2

⚠ 警 告

（続き）

- **早めに行動を起こし**衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 障害物を避けるために**進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。**進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。航走前には、スロットルとステアリングが正しく作動することを常に確認してください。
- マリンジェットに関する航海法規及び地域の条例や規則に従ってください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

GM6-641B2-71

3

⚠ 警 告

マリンジェットを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

- **救命胴衣を着用してください。**乗船者はマリンジェットの用途に合った日本小型船舶検査機構(JCI)認定の救命胴衣(ライフジャケット)を必ず着用してください。
- **身体を保護できる衣服等を着用してください。**落水による水面への衝撃やジェットノズルの近くで強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部(膣や肛門)の十分な保護にはなりません。身体を保護できるウェットスーツやボトム等を必ず着用してください(取扱説明書を参照ください)。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)等も合わせて着用ください。
- **操船には特殊小型船舶操縦士免許が必要です。**小型船舶操縦免許証を持って乗船してください。
- **操船者が落水したときにエンジンが停止するよう緊急エンジン停止コード(ランヤード)を手首に取り付けてください。**緊急エンジン停止コード(ランヤード)はハンドルバー等に絡まないようにしてください。また航走後は子供等が扱えないようマリンジェットから取り外してください。

（右のラベルに続く）

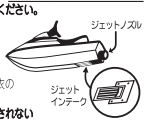
GM6-641B1-63

4

⚠ 警 告

（続き）

- **自分の操船技量をよく知り、無謀な航走はしないでください。**操船に支障が生じたり、落水や衝突の原因になります。マリンジェットは高性能な船舶です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨/背髄の損傷(麻痺)、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折が起こる恐れがあります。ジャンプは行なわないでください。
- **マリンジェットの後方に人等がいるときはスロットルを開けないでください。**エンジンを停止させるか、アイドリング回転数にしてください。スロットルを開けるとジェットノズルから噴出される水や異物で大きな怪我をする恐れがあります。
- **ジェットインテークに近づかないでください。**エンジン運転中にジェットインテークに近づくと、長い髪、だぶついた衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、大きな怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- **再乗船の際は、強いジェット噴流にさらされないよう、視界が制限されないよう気をつけてください。**素早く乗込んで立つ姿勢かひざまづく姿勢をとってください。
- **飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。**

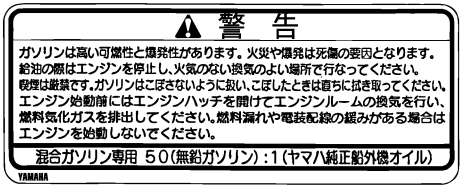


取扱説明書をよく読んでからご使用ください。

GM6-641B1-71

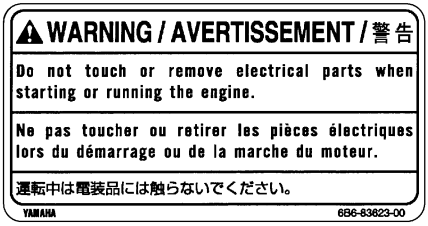
製造番号と重要なラベル

5

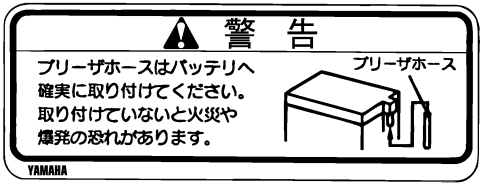


F1N-6415B-20

6



7



F1N-641DB-20

JJU35926

その他のラベル

8

EW3-64197-00

次のラベルは、マリンジェットが転覆した場合の正しい引き起こし方向を示しています。

9

F2F-6418F-00

JJU35393

マリンジェットを安全にご使用いただくためには、適切な操船技術を身に付けるだけでなく、操船者の良識と優れた判断力やマリンジェット特有の特性に関する知識が必要です。

操船者は下記の内容を十分理解してからご使用ください。

- ご使用になる前には、本取扱説明書、操船の手引きと全てのラベルを必ずお読みいただき、マリンジェットの取り扱い方法について十分理解してください。
- お客様のマリンジェットを他人に使用させる場合は、前もって本取扱説明書、操船の手引きと全てのラベルを必ず読ませてください。

操船者には次のような遵守事項があります。

- **酒酔い操縦等の禁止**
  飲酒等により、正常な判断ができない状態での操縦は禁止されています。
- **自己操縦の義務**
  マリンジェットは全ての海域で免許所有者以外が直接操縦することは禁止されています。
- **危険操縦の禁止**
  海水浴場など、遊泳者のいる付近で疾走したり急旋回する等の危険な操縦は禁止されています。
- **救命胴衣の着用義務**
  マリンジェットの全ての乗船者は救命胴衣の着用が義務付けられています。

上記遵守事項に違反し、一定基準に達すると、免許停止または戒告の行政処分を受ける場合があります。

JJU35401

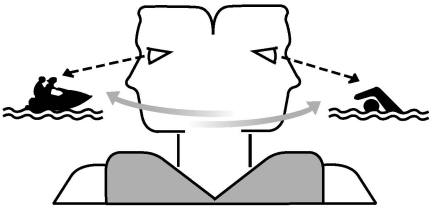
マリンジェットの使用にあたり

- 平成15年6月1日より「船舶職員法」を一部改正した「船舶職員及び小型船舶操縦者法」が施行となり、ボート・ヨット用（小型船舶）免許と水上オートバイ用（特殊小型船舶）免許が区別されました。マリンジェットは特殊小型船舶に分類されます。これにより、マリンジェットの操縦には特殊小型船舶操縦士の資格が必要となります（1級・2級小型船舶操縦士免許のみでは操縦できません）。ただし従来の資格による操縦区分は、改正後もそのまま保護されます。そのため改正前に海技免許を取得された方は、5級小型船舶操縦士以上（湖川小馬力5級免許は不可）の資格があれば従来通りマリンジェットを操縦できます。
- 免許所有者以外が操縦することは禁止されています。免許所有者は操縦資格を証明できる様に常に小型船舶操縦免許証を携帯してください。
- マリンジェットを使用する水域の船舶関連法規、条例等を必ず確認し、その指示に従ってください。
- 日本小型船舶検査機構（JCI）により交付された船舶検査証書、船舶検査手帳は必ず船内に備え、船舶検査済票は両舷の周囲から見えやすい位置に貼り付けてください。
- このマリンジェットは1人乗りです。2人以上で乗船することは、絶対にしないでください。

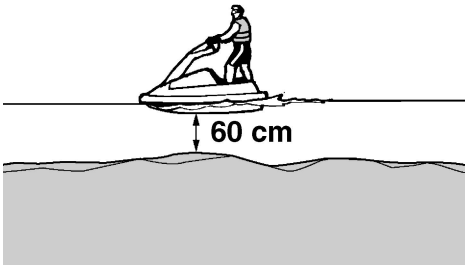
JJU30762

航走について

- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。



- 気を抜かないで航走してください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。
- 他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。
- 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
- 急旋回等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。
- 浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。
- 早めに行動を起こし衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。航走前には、スロットルとステアリングが正しく作動することを常に確認してください。
- 自分の操船技量をよく知り、無謀な航走はしないでください。操船に支障が生じたり、落水や衝突の原因になります。
- マリンジェットは高性能な船舶です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨／脊髄の損傷（麻痺）、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折が起こる恐れがあります。ジャンプは行なわないでください。
- 荒波、悪天候、視界不良のときなどには航走しないでください。重大な海難事故につながる恐れがあります。出航前には天気予報を確認し、気象の変化に留意してください。
- 他のマリンスポーツと同様、単独での行動はやめましょう。ご自身が泳ぎ着ける距離を越えて陸岸から沖合いに出る場合は、他の船舶等と同行しましょう。これはマリンスポーツを行なう場合の良識です。
- 船底から水底までの距離が60 cm以下のところでは絶対に使用しないでください。航走中や落水時に水中の障害物に接触して負傷する恐れがあります。



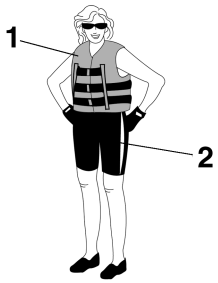
- 夜間の航行は法令によりできません。

- マリンジェットに関する航海法規及び地域の条例や規則に従ってください。

JJU35432

操船について

- 救命胴衣を着用してください。乗船者はマリンジェットの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。
- 身体を保護できる衣服等を着用してください。落水による水面への衝撃やジェットノズルの近くで強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部（膣や肛門）の十分な保護にはなりません。身体を保護できるウェットスーツボトム等を必ず着用してください。厚くしっかりした丈夫な布でデニムのように体にぴったりした衣類がそれに相当します。しかし、自転車競技用の短パンに使われているスパンデックスのような織物は効果が有りません。

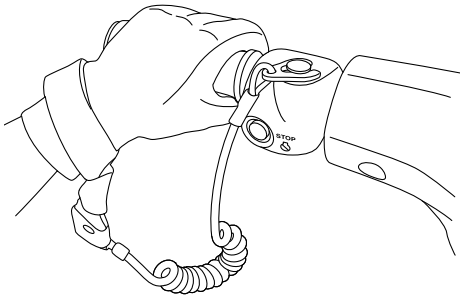


1 日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣
2 ウェットスーツボトム

- 風や水飛沫、太陽の水面反射光等は航走中の視野を狭めます。そのようなときにはゴーグル、サングラス等の保護眼鏡を着用することを推奨いたします。
  眼鏡のストラップには眼鏡が水没したときに水に浮くようなものも有ります。
  シューズ、手袋等も併せて着用してください。
- ヘルメットの着用については次のことを考慮した上で判断してください。
  ヘルメットを着用することで落水、衝突等の事故から頭部を保護できる場合もありますが、一方では視野が制限されたり、周囲の音が聞こえ難くなったり、ヘルメットの重みで疲れやすくなったりすることもあり、事故につながる恐れもあります。また、航走中に落水したときにはヘルメットの中に水が入り呼吸ができなくなったり、首などに傷害等を受けることもあります。ヘルメットの着用はマリンジェットの使用状況等を考慮して判断してください。
  競技等に参加される場合は、開催者が認定したヘルメットを着用してください。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。
- 安全で適正な機能維持のために、ご使用前に 29 ページの「使用前の点検」を必ず実行してください。
- 航走中操船者は必ず両足または両膝をライディングトレイに乗せておいて下さい。足を浮かせると身体のバランスを失ったりマリンジェット周辺の障害物等に足をぶつける恐れが有ります。

- 妊娠中や健康状態が良くない方は乗船する前に医師に相談してください。
- マリンジェットの改造はしないでください。改造行為は安全性および信頼性を低下させ、法令違反となることがあります。
- 操船者が落水したときにエンジンが停止するよう緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けてください。緊急エンジン停止コード（ランヤード）はハンドルバー等に絡まらないようにしてください。また航走後は子供等が扱えないようマリンジェットから取り外してくださ

い。

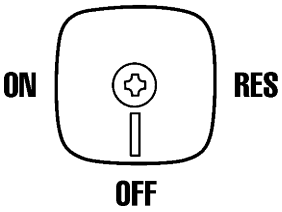


- 遊泳者等には常に注意を払ってください。また、遊泳水域には近づかないようにしてください。遊泳者はマリンジェットからは見えにくく、誤って衝突する恐れがあります。
- 周囲の船舶から衝突されないように、常に自分の方から周囲を監視するようにしてください。周囲の船舶の操船者がマリンジェットに気がついていない場合や気づいても突然予期せぬ航走をした場合は、衝突する恐れがあります。
- 常に周囲の船舶等との間には安全な距離を保ってください。また、周囲の船舶の水上スキーロープや釣り糸にも注意してください。
  航海法規を守り、特に旋回するときは後方をよく確認してください。

JJU30851

注意事項について

- マリンジェットを運搬または保管する場合は燃料コックを必ず “OFF” 位置にしてください。キャブレターから燃料が溢れ出る恐れがあります。

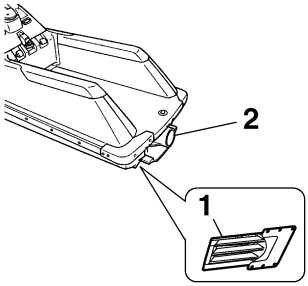


- 閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間であっても運転することは絶対にしないでください。排気ガスは一酸化炭素を含み、中毒を起す恐れがあります。マリンジェットは開放された場所でご使用ください。

JJU30881

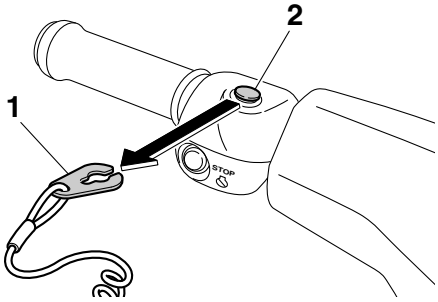
マリンジェットの特性について

- マリンジェットは推進力によって旋回します。スロットルレバーを完全に放すと推進力は最小になります。滑走中にスロットルを戻すと、旋回能力が急速に低下します。スロットルを戻した直後はまだ僅かな旋回能力は残っていますが、一度エンジンの回転が落ちてしまうと、いくらハンドル操作を行なっても、再びスロットルを開くまで、または艇がトローリング速度に到達するまで、旋回はできません。旋回方法に十分に慣れるまでは障害物等の無い広い場所で練習してください。
- マリンジェットは水の噴流によって推進力を得ます。ジェットポンプはエンジンに直結されていますので、エンジン運転中は常に推進力が発生します。ニュートラルは有りませんので、マリンジェットは僅かに前進します。
- ジェットインテークに近づかないでください。エンジン運転中にジェットインテークに近づくと、長い髪、だぶついた衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、大きな怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- ジェットノズルの中には絶対に物を入れないでください。ジェットポンプの回転部品と接触し、重大な事故につながる恐れがあります。



1 ジェットインテーク
2 ジェットノズル

- ジェットインテークにはゴミや海藻が吸い込まれて付着することがあります。これらを取り除くときは必ずエンジンを停止させ、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外してください。



1 ロックプレート
2 緊急エンジン停止スイッチ

- 再乗船の際は、強いジェット噴流にさらされないよう、視界が制限されないよう気をつけてください。素早く乗込んで立つ姿勢かひざまづく姿勢をとってください。

JJU35472

船舶規則

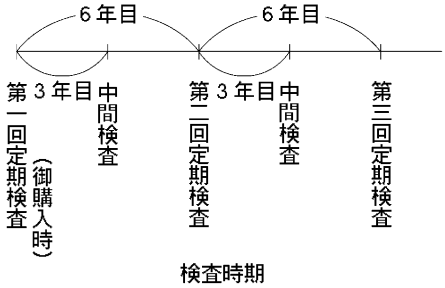
マリンジェットは法律上においては動力船とみなされます。マリンジェットを使用するときは、船舶安全法、使用水域の法令や規則等に必ず従ってください。

JJU40511

船舶検査

船舶安全法により総トン数が20トン未満の船舶は、日本小型船舶検査機構（JCI）の行なう検査に合格し、検査証等を交付された後でなければ航行できません。船舶検査には初回およびその後 6 年毎に行なう「定期検査」と、定期検査後 3 年毎に行なう「中間検査」などがあります。

詳しくは、お買い上げのヤマハ取扱店または日本小型船舶検査機構（JCI）にお問い合わせいただき、必ず船舶検査を受けてからご使用ください。



検査時期

JJU35493

法定備品

船舶安全法によりマリンジェットに搭載する備品の種類と数量が定められています。マリンジェットをご使用になる前に、下記の法定備品が搭載されていることを確認してください。

詳しくは、ヤマハ取扱店または日本小型船舶検査機構（JCI）にお問い合わせください。

区　分	備品の名称	数量	備　　考
救命設備	救命胴衣（JCI認定品）	1	乗船者は必ず着用してください。
	小型船舶信号紅炎セット　※1	1	
航海用具	音響信号器具	1	笛で代用できます。
係船設備	係船ロープ	1	

※1：
- 航行区域が川のみに限定されているものは不要
- 携帯電話（航行区域がサービスエリア内、防水機能等の条件有）等の有効な無線設備を備えるものは不要

小型船舶用信号紅炎セットは付属の指示をよく読み、硬い鋭利なものと混載しないよう専用のケースに入れ、航走中に物入れ内で動き回らないように確実に搭載してください。詳しくはお買い上げのヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU35503

航行区域

マリンジェットの航行区域は、船舶安全法により次の区分によって規制されています。

- 一般的に使用するマリンジェットの場合。
- 母船に搭載して使用するマリンジェットの場合。

それぞれに関して次のように航行区域を規制してありますので十分注意して使用ください。詳しくは、船舶検査証書を確認してください。

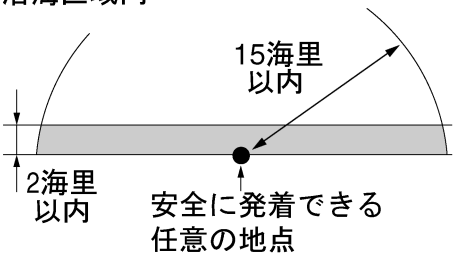
JJU35512

一般的に使用するマリンジェットの航行区域

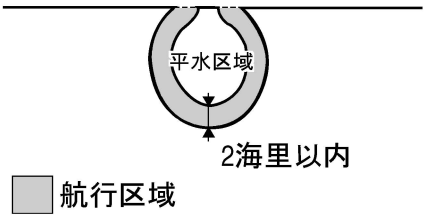
- 沿海区域
  マリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里（約 28 km）以内の水域のうち、当該地点における海岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。
  図のように航行区域が制限されます。
  安全に発着できない海岸とは、海岸線に岩、崖、護岸（消波ブロックや防波堤）、隠頭岩（潮の満ち引きにより見え隠れする

岩、見えないが水深が十分にない岩）などがある海岸です。

沿海区域内



- 平水区域
  平水区域の陸岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。
  図のように航行区域が制限されます。
  平水区域とは沿海区域に含まれ、船舶安全法施行規則第１条第６項で定められた湖、河川、湾などの水域です。

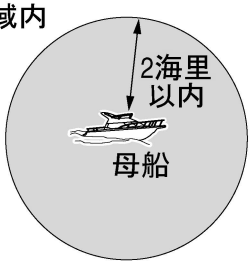


JJU35521

母船に搭載して使用するマリンジェットの航行区域

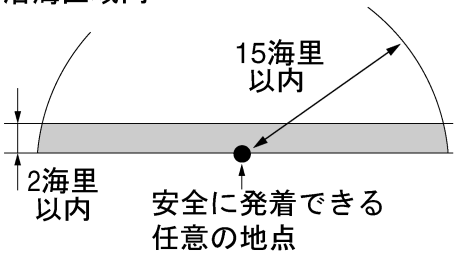
- 沿海区域内で母船を中心に半径２海里（約 3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。

沿海区域内

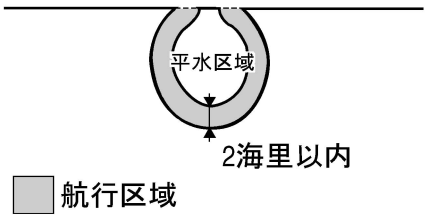


- 沿海区域内でマリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里（約 28 km）以内の水域のうち、当該地点における海岸から２海里（約3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。

沿海区域内



- 平水区域内の水域のうち陸岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。



JJU35532

他の遵守事項

海は共有の場、いろいろな楽しみを求めてたくさんの方々が利用する場所です。また、この海を生活の糧とする方々も多数います。この共有の財産をいつまでも楽しく使うために次の事を守りましょう。

周辺の人々のために

- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他人に迷惑を掛ける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないよう注意してください。
- 航走中の周囲の船舶に近づかないでください。
- 漁場への乗り入れ、操業中の漁船に近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

いつまでもきれいな海で乗るために

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。（不法投棄は絶対しないでください。）
- 燃料やオイルで海岸や水面を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や生物を大切にしましょう。

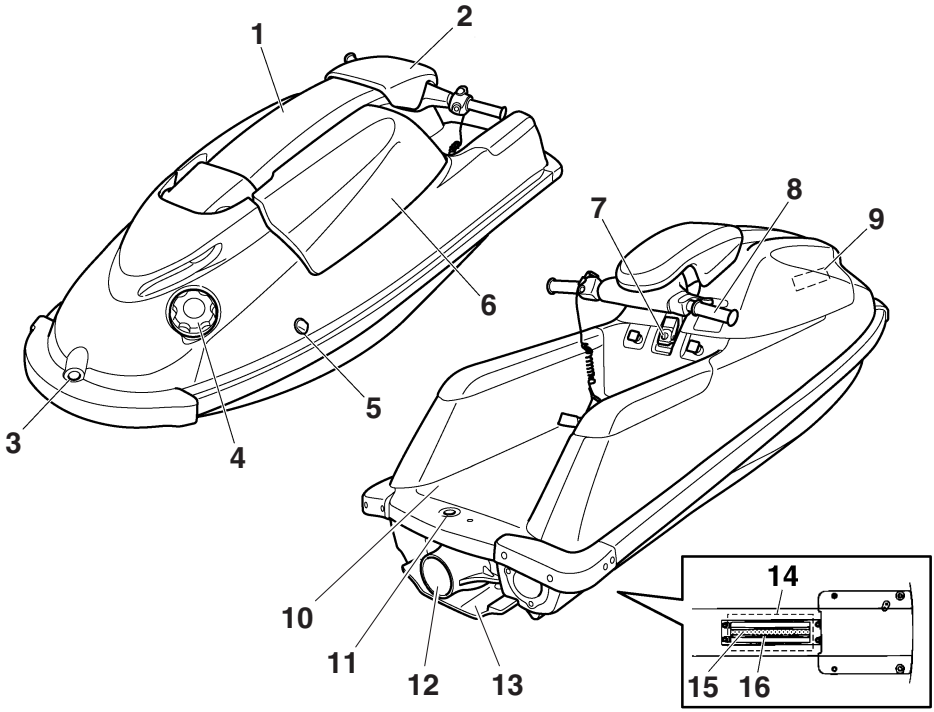
JJU40653

マリンジェットに関する用語

トローリング速度
トローリング速度は、低速域の速度です。
スロットル操作を行なわないか、少しだけのスロットル操作を行ないます。マリンジェットはまだ水から浮上していません。
この状態では引き波はほとんど起きません。
サブプレーニング速度
サブプレーニング速度は、中速域での限られた速度です。
マリンジェットの船首部が水から浮上しようとして持ち上がった状態です。しかし、マリンジェットの船尾部は、まだ完全に水から浮上していません。
この状態では引き波が起きます。
プレーニング速度
プレーニング速度は、中高速域での速度です。
マリンジェットは水から浮上しています。
この状態では引き波が起きます。
バウ
マリンジェットの船首です。
スターン
マリンジェットの船尾です。
右舷
マリンジェットの進行方向に向かって右側です。
左舷
マリンジェットの進行方向に向かって左側です。
ビルジ
エンジンルーム内に溜まった水です。

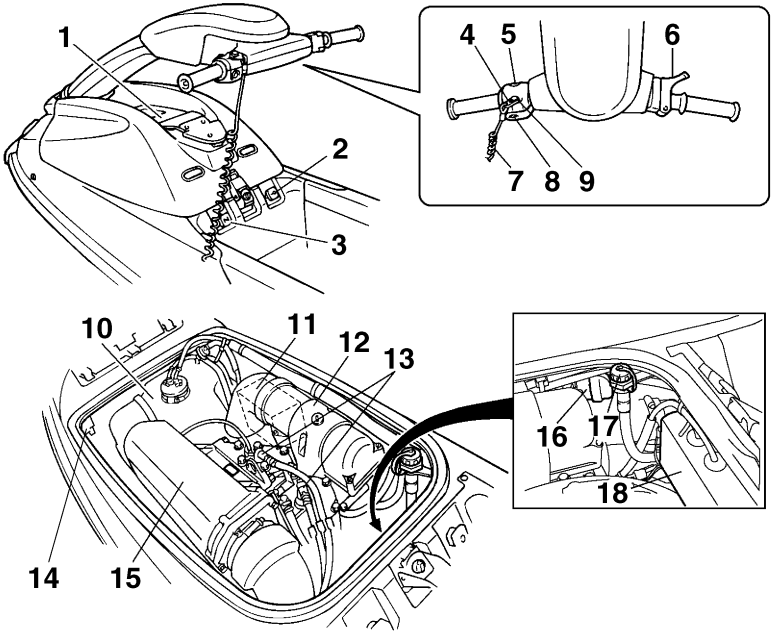
JJU31012

各部の名称と位置



1 ステアリングポール
2 ステアリングパッド
3 バウロープホール
4 燃料フィラーキャップ
5 冷却水点検孔
6 フード
7 フードラッチ
8 ハンドルバー
9 フード裏物入れ
10 ライディングトレイ
11 スターンロープホール
12 ジェットノズル
13 ライドプレート
14 ジェットインテーク（吸水口）
15 ドライブシャフト
16 ジェットインテーク

各部の名称



1 フード上側物入れ
2 燃料コック
3 チョークノブ
4 ロックプレート
5 エンジン始動スイッチ
6 スロットルレバー
7 緊急エンジン停止コード（ランヤード）
8 エンジン停止スイッチ
9 緊急エンジン停止スイッチ
10 燃料タンク
11 バッテリー
12 サイレンサー
13 スパークプラグ／スパークプラグキャップ
14 水分離器
15 マフラー
16 燃料フィルタ
17 水洗ホースコネクター
18 電装ボックス

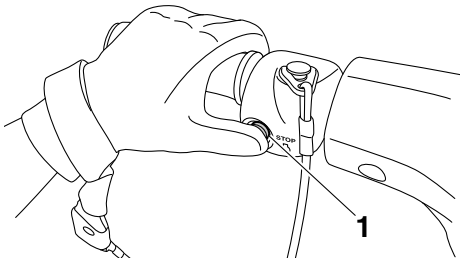
JJU31026

操船機能

JJU31153

エンジン停止スイッチ “⏻”

エンジン停止スイッチ（赤ボタン）を押すと、エンジンが停止します。

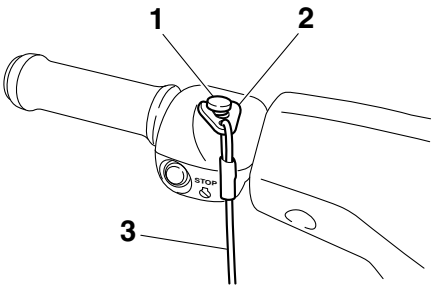


1 エンジン停止スイッチ

JJU31164

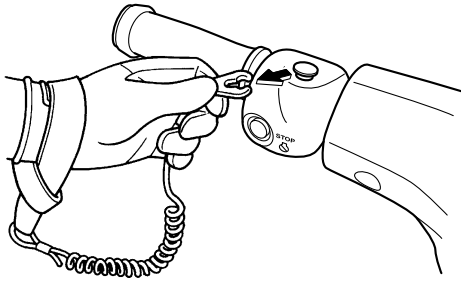
緊急エンジン停止スイッチ “⚠”

緊急エンジン停止スイッチは操船者の落水等で緊急エンジン停止コード（ランヤード）に取り付けられたロックプレートが外れると、エンジンを自動的に停止します。
エンジンを始動する前に、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチの下に差し込みます。



1 緊急エンジン停止スイッチ
2 ロックプレート
3 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

不意のエンジン始動や子供等が操作することを防止するために、エンジンが停止しているときは必ずロックプレートを緊急エンジン停止スイッチから取り外してください。



JJU41051

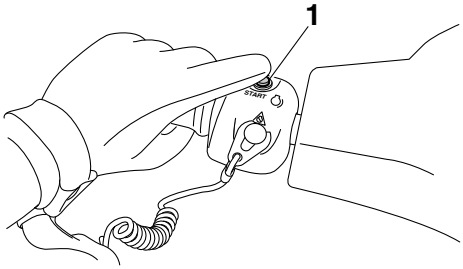
エンジン始動スイッチ “⏻”

JCJ01361

注　意

エンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で15秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

エンジン始動スイッチ（緑ボタン）を押すと、エンジンが始動します。
エンジンが始動したらただちにエンジン始動スイッチを放してください。エンジン始動スイッチを 5 秒押してもエンジンが始動しないときは、15 秒待ってから再始動してください。***注意：*エンジン運転中はエンジン始動スイッチを絶対に押さないでください。スターターモーターは連続して 5 秒以上回さないでください。バッテリーが上がり、エンジンが始動できなくなる恐れがあります。また、スターターモーターの損傷の要因ともなります。**[JCJ01041]



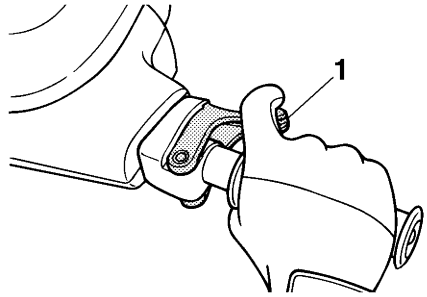
1 エンジン始動スイッチ

ロックプレートが緊急エンジン停止スイッチから外れているときは、エンジンは始動しません。

JJU31212

スロットルレバー

スロットルレバーを握るとエンジン回転数が上昇します。



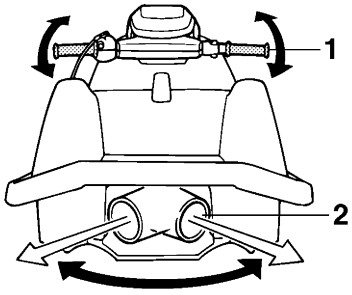
1 スロットルレバー

スロットルレバーを放すと自動的に全閉状態（アイドリング回転数）に戻ります。

JJU35933

ステアリングシステム

ハンドルバーを操作すると、艇体後部に有るジェットノズルの向きが変わり、これに応じてマリンジェットの進行方向が変わります。



1 ハンドルバー
2 ジェットノズル

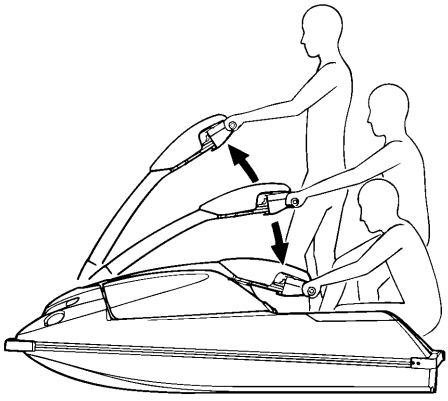
ジェットノズルからの噴流の方向や強弱によって速度や旋回角度が変わります。トローリング速度以外で旋回する時は、常にスロットルを開ける必要があります。

ジェットノズルの切れ角は、操船者の好みにより調整することができます。（ジェットノズル切れ角の調整方法については、52 ページを参照ください。）

JJU31273

ステアリングポール

ステアリングポールは、上下に可動しハンドルバーの高さを変えることができます。

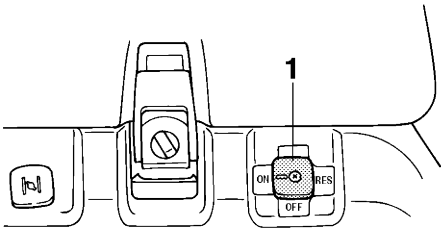


JJU31124

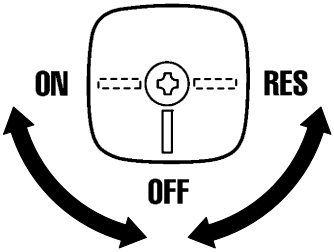
燃料コック

燃料コックを操作すると燃料の供給方法を切り替えることができます。

使用状況により３つの位置から選択します。



1 燃料コック

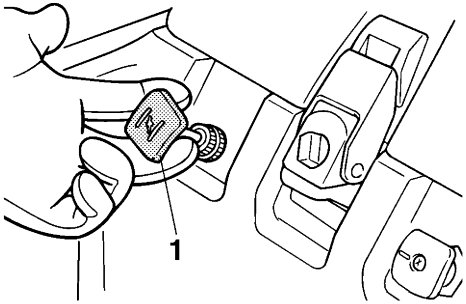


OFF:
燃料コックがこの位置にあるときは、燃料はキャブレターに供給されません。エンジンを停止しているときは必ずこの位置にしておきます。
ON:
燃料コックがこの位置にあるときは、燃料がキャブレターへ供給されます。エンジン始動時および航走中はこの位置にしておきます。
RES:
燃料コックがこの位置にあるときは、予備燃料がキャブレターに供給されます。航走中に燃料が無くなったとき、燃料コックをこの位置にしてください。しばらくは運転を続けることができますが早めに給油し、給油後は“ON”位置に戻してください。

JJU31203

チョークノブ“ ”

チョークノブを操作すると、冷間時のエンジン始動に必要な濃い混合気をエンジンに供給することができます。
<u>チョークを使用するときは：</u>
チョークノブを引きます。
エンジンが始動したらチョークノブを元の位置まで押し込みます。

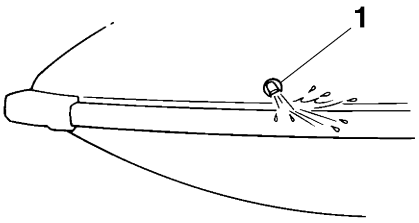


1 チョークノブ

JJU31224

冷却水点検孔

冷却水点検孔は、エンジン運転中にエンジン内を循環する冷却水の一部を排水します。



1 冷却水点検孔

冷却水点検孔は艇体の左舷にあり、冷却機能の正常な作動は、冷却水点検孔から排水されていることで確認できます。排水されていない場合は、エンジンを停止させてから、ジェットインテークに異物が詰まっていないか点検してください。（ジェットインテークについては 61 ページを参照ください。）

要　点

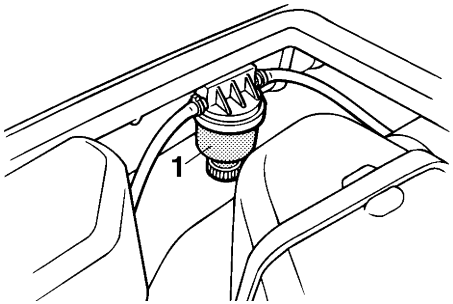
● エンジン始動後に冷却水が点検孔に達す

るまでに約 20 秒程かかることがあります。
- アイドリング回転数でエンジン運転中は排水が不安定な場合があります。そのときはスロットルを少し開いて排水を確認してください。

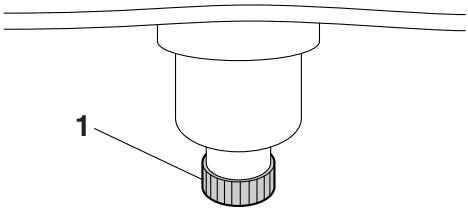
JJU40323

水分離器

水分離器は、転覆時などに燃料ブリーザーホースから浸入した水が燃料タンクに入らないよう、浸入した水を溜めます。
水分離器内に溜まった水は、ドレンスクリューを緩めると排水できます。



1 水分離器



1 ドレンスクリュー

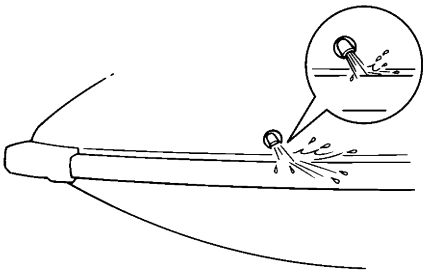
<u>水分離器に溜まった水を排水するときは：</u>
(1) 受け皿や乾いた布を水分離器の下に用意します。
(2) ドレンスクリューを徐々に緩め排水します。排水は受け皿に受けたり、乾いた布にしみ込ませたりしてエンジンルームにこぼさないようにしてください。エンジンルームにこぼした場合は、乾いた布で拭き取ってください。
(3) ドレンスクリューを止まるまで確実に締め込みます。

JJU31665

オーバーヒート警告装置

エンジン温度が著しく上昇すると、オーバーヒート警告装置が作動しエンジンの回転数を約 3400 r/min 以下に下げる制御が働きます。
オーバヒート警告装置が作動した場合は、ただちにエンジン回転数を下げ、マリンジェットを着岸させ、エンジン運転中に冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。排水されていない場合は、エンジンを停止させてから、ジェットインテークに異物が詰まっていないか点検してください。（ジェットインテークについては 61 ページを参照ください。）***注意：*****オーバーヒートの原因が判らないときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。そのまま高速運転を続けると、重大なエンジン損傷の原因となります。**

[JCJ00042]



JJU40334

装備品

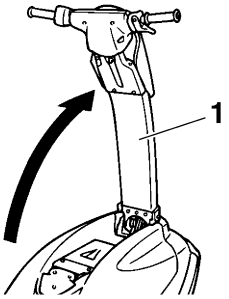
JJU31057

フード

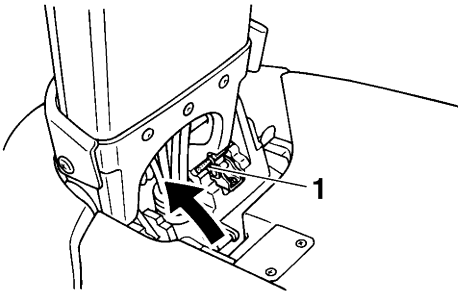
フードは取り外すことができます。
フードを取り外すと、エンジンルームにアクセスできます。

フードを取り外すときは：

(1) ステアリングポールを持ち上げ、ロックピンをポールのツメに掛けて支えます。

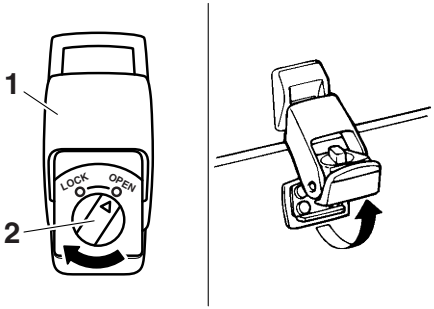


1 ステアリングポール



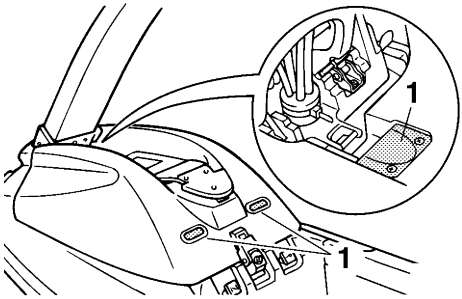
1 ロックピン

(2) フードラッチノブを “OPEN”（開位置）に回し、フードラッチを上方向に持ち上げてロックを解除します。



1 フードラッチ
2 フードラッチノブ

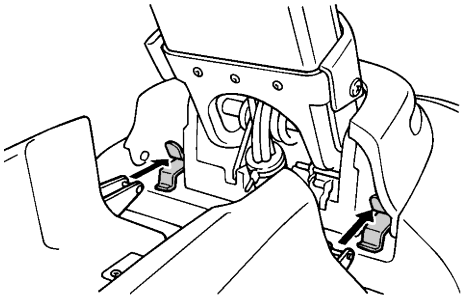
(3) フードの前後にあるハンドグリップを握り、フードを後方に引き上げるようにして取り外します。



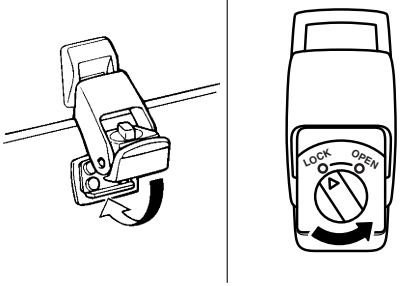
1 ハンドグリップ

フードを取り付けるときは：

(1) フードの前側にある突起部を艇体側のステーに嵌まるようにフードをのせます。



(2) フードラッチを押し下げ、フードラッチノブを“LOCK”（ロック位置）に回して確実に固定します。

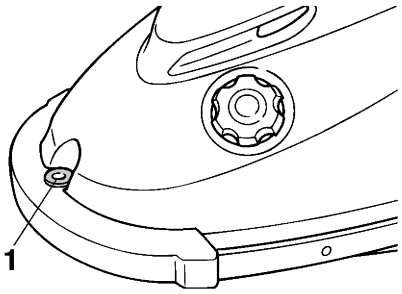


(3) ステアリングポールを支えながらロックピンを外し、ステアリングポールを下ろします。

JJU36003

バウロープホール

バウロープホールは、マリンジェットを運搬・係留する場合や、緊急時の曳航を行なう場合にロープを取り付けて使用します。（マリンジェットの曳航については63ページを参照ください。）

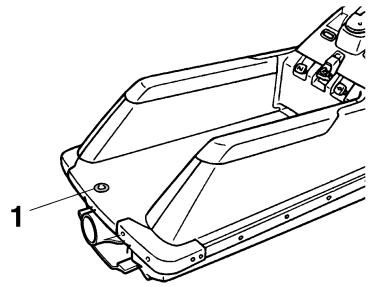


1 バウロープホール

JJU36012

スターンロープホール

スターンロープホールは、マリンジェットを係留する場合にロープを取り付けて使用します。



1 スターンロープホール

JJU31676

フード裏物入れ（ポーチ）

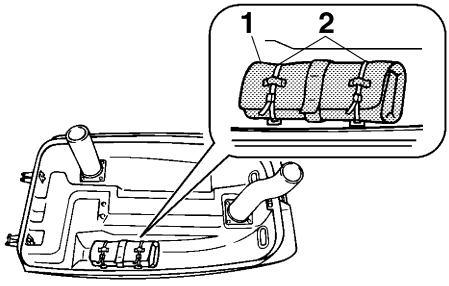
フード裏物入れがフードの裏側に装備されています。

フード裏物入れは取扱説明書と工具および、小さい備品用です。フード裏物入れは防水構造ではありません。船舶検査証書、船舶検査手帳、取扱説明書等、水に濡れて困るものは防水バッグに入れて収納してください。

フード裏物入れを取り外すときは：

(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については22ページを参照ください。）

(2) クランプバンドを取り外し、フード裏物入れを取り外します。

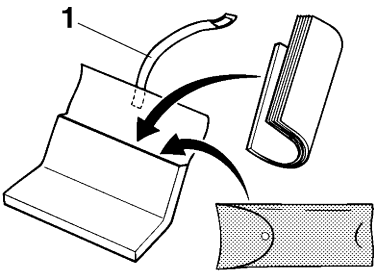


1 フード裏物入れ
2 クランプバンド

フード裏物入れを取り付けるときは：

(1) 取扱説明書を軽く二つ折りにして入れた後、工具や備品を入れてベルトで閉じ

ます。



1 ストラップ

(2) フード裏物入れを元の場所に置き、クランプバンドで固定します。
(3) フードを元のように確実に取り付けます。

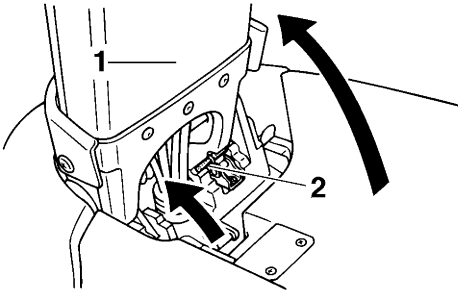
JJU41004

フード上側物入れ

フード上側物入れがフードの上に装備されています。
フード上側物入れは防水構造ではありません。船舶検査証書、船舶検査手帳、取扱説明書等、水に濡れて困るものは防水バッグに入れて収納してください。

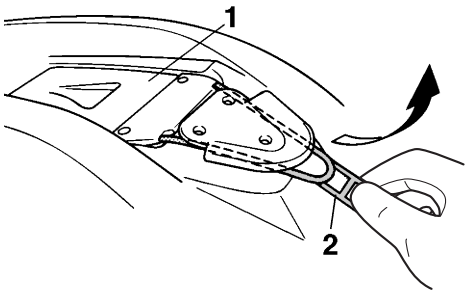
フード上側物入れを開けるときは：

(1) ステアリングポールを持ち上げ、ロックピンをポールのツメに掛けて支えます。



1 ステアリングポール
2 ロックピン

(2) ゴムバンドを後ろに引いて上に外します。

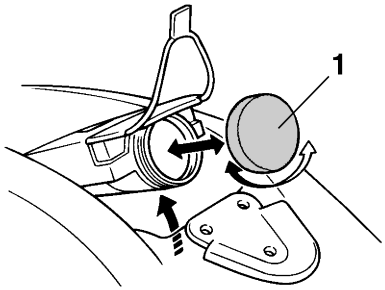


1 フード上側物入れ
2 ゴムバンド

(3) フード上側物入れを収納位置から約30° 持ち上げます。***注意：*** **フード上側物入れを収納位置から 30° 以上持ち上げないでください。フード上側物入れとフードが損傷する恐れがあります。**

[JCJ01351]

(4) キャップを緩めて取り外します。



1 キャップ

フード上側物入れを閉めるときは：

(1) キャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。
(2) フード上側物入れを収納位置まで下ろし、ゴムバンドで元のように確実に固定します。
(3) ステアリングポールを支えながらロックピンを外し、ステアリングポールを下ろします。

JJU31793

燃料とオイルについて

JJU31834

燃料

JWJ00283

⚠警　告

- **ガソリンは高い引火性と爆発性があります。火災や爆発の危険、給油時の負傷を避けるために、以下の指示に従ってください。**
- **ガソリンは有毒であり、傷害や死亡の原因となります。取り扱いには十分に注意をしてください。ガソリンを口で吸い出さないでください。飲み込んだり、目に入ったり、または多量の揮発蒸気を吸い込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は、着替え等を行なってください。**

JCJ00322

注　意

- **有鉛ガソリンは使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに大きな損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンクに水や他の異物が混入しないように注意して給油してください。異物の混ざった燃料は、エンジンの作動不良や損傷の原因となります。ガソリンは必ず新しいものを使用してください。**

推奨燃料：
　無鉛レギュラーガソリン

JJU31873

エンジンオイル

推奨エンジンオイル：
　ヤマルーブ　２Ｗ または船外機オイル同等品

JJU31903

ガソリンとエンジンオイルの混合

JCJ00332

注　意

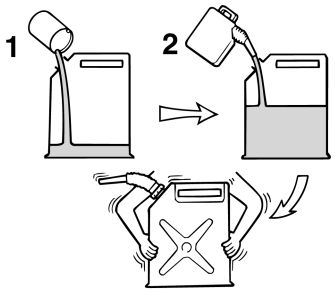
ガソリンとオイルが完全に混ざっていない場合や間違った混合比の燃料を使用すると、重大なエンジン損傷の原因となります。

ガソリンとエンジンオイルを混合するときは：

(1) きれいな容器にエンジンオイル、ガソリンの順で給油します。

ガソリン：エンジンオイル （混合比）
　慣らし運転中：
　　25：1
　慣らし運転後：
　　50 :1

(2) 容器を左右に振ってよく撹拌させます。



1 エンジンオイル
2 ガソリン

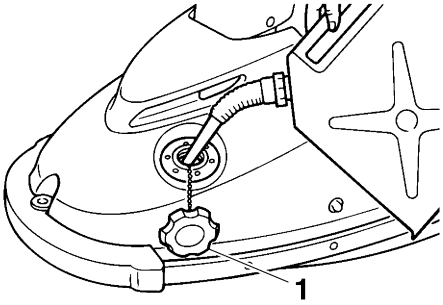
JJU31917

混合燃料の給油

燃料を給油するときは：

(1) 給油はエンジンを停止してから行なってください。マリンジェットに乗船した

まま給油しないでください。給油中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。
(2) マリンジェットを換気のいい場所に水平に置きます。
(3) フードを取り外し、燃料タンクの燃料残量を確認します。（フードの脱着方法については、22 ページを参照ください。）
(4) 燃料フィラーキャップを緩めて取り外します。



1 燃料フィラーキャップ

(5) 燃料をゆっくりと給油します。

燃料タンクの容量： 総量： 18 L 予備： 5.5 L

(6) 給油チューブの下端部に燃料が達したら、給油を止めます。燃料は入れ過ぎないようにしてください。燃料は温度上昇とともに膨張して溢れる恐れがあります。燃料タンクが満タンの状態で、マリンジェットを直射日光の下に放置しないでください。
(7) こぼれたガソリンはただちに乾いた布で拭き取ります。
(8) 燃料フィラーキャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。
(9) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU40022

ビルジの排水

JCJ01302

注　意

エンジンルーム内にビルジが溜まっている場合は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。ビルジが飛び散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。

JJU40922

水上でのビルジ排水

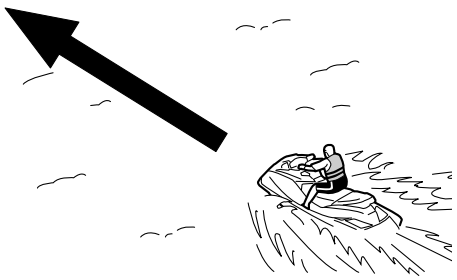
水上でのビルジ排水後は、エンジンルーム内に多少のビルジが残ります。完全に取り除くときは、マリンジェットを陸揚げし、残ったビルジを乾いた布で拭き取ってください。

ジェット負圧式ビルジ排水システム

マリンジェット航走中にジェットポンプ内で発生する負圧により、エンジンルーム内のビルジが吸い出され、ジェットノズルから船外に排水されます。

水上でビルジを排水するときは：

プレーニング速度を維持し、2 分間以上直進で航走します。***注意：*** **エンジン再始動後 1 分間は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。溜まっているビルジが飛び散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。**[JCJ00554]



運航時の取扱い

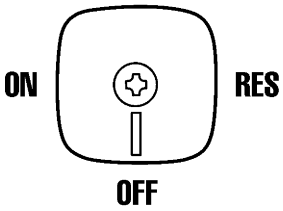
JJU33424

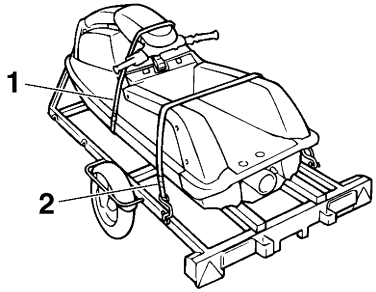
トレーラーでの運搬

JWJ00751

⚠警　告

マリンジェットを運搬する場合は、燃料コックを必ず “OFF” 位置にしてください。ガソリンが漏れ、エンジンやエンジンルーム内に入って火災を起こす恐れがあります。消防法に従って運搬してください。





1 ゴムベルト
2 固定器具

マリンジェットをトレーラーに積んで運ぶときは、ロープまたは固定器具でバウロープホールと艇体後部をトレーラーに固定します。また、ステアリングポールにもゴムベルト等を掛けて艇体に固定します。***注意：*** **ロープや固定器具でステアリングポールとトレーラーを固定しないでください。また、ステアリングポールを持ち上げたまま運搬しないでください。ステアリングポールが損傷する恐れがあります。傷や破損を防止するために、ロープや固定器具がマリンジェット本体に接する箇所にはタオル等の適当な保護具を当ててください。** [JCJ00633]

JJU32757

慣らし運転

JCJ00432

注　意

慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が縮むばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。

エンジン構成部品等の摺動面を均一に摺り合せるために、慣らし運転が必要です。慣らし運転を行なうことにより、安定した性能が得られるとともに各部品の寿命も延びます。
慣らし運転を行なうときは：

(1) 燃料タンクに 25：1 の混合燃料を満タンまで給油します。（燃料の給油方法については 25 ページの“ガソリンとエンジンオイルの混合”、“混合燃料の給油”を参照ください。）
(2) マリンジェットを進水し、エンジンを始動します。（エンジンの始動については 37 ページを参照ください。）
(3) 最初にアイドリング回転数で 5 分間航走します。
(4) 次に燃料タンク内の初回満タンの混合燃料を使いきるまではゆっくりとスロットルを開け、スロットル開度を 3/4 またはそれ以下で航走します。
(5) 次に燃料タンクにもう一度 25：1 の混合燃料を満タンまで給油し、任意のスロットル開度で航走します。

慣らし運転完了後、50：1 の混合燃料を給油し通常の航走が行なえます。

使用前の点検

JJU31982

JWJ00412

⚠警　告

点検整備を正しく行なわないと、事故や故障の原因となる恐れがあります。1つでも不具合が見つかったときは、マリンジェットを使用しないでください。本書に記載の手順を行なっても不具合が解決しない場合は、ヤマハ取扱店で整備を受けてください。

JJU41234

使用前点検チェックリスト

マリンジェットを使用する前に、必ずチェックリストに基づき点検を行なってください。

項目	点検方法	参照ページ
進水前の点検		
エンジンルーム	エンジンルームの換気を行ないます。 エンジンルーム内に損傷がないことを確認します。	31
燃料系統	燃料系統に漏れがないことを確認します。 燃料タンク内の燃料残量を確認します。	31
水分離器	水分離器内に水が溜まっていないことを確認します。	31
エンジン外観	エンジン外観に損傷がないことを確認します。	32
ビルジ	エンジンルーム内にビルジが溜まっていないことを確認します。	32
バッテリー	バッテリーの接続状態と液量を確認します。	32
ステアリングシステム	ステアリングシステムが正常に作動することを確認します。	32
スロットルレバー	スロットルレバーが正常に作動することを確認します。 スロットルレバーの遊び量を確認します。	33
緊急エンジン停止コード（ランヤード）	緊急エンジン停止コード（ランヤード）に損傷がないことを確認します。	34
スイッチ類	エンジン始動スイッチ、エンジン停止スイッチおよび緊急エンジン停止スイッチが正常に作動することを確認します。	34
フード裏物入れ	フード裏物入れに損傷がないこと、水が溜まっていないことを確認します。 フード裏物入れが確実に固定されていることを確認します。	34
フード上側物入れ	フード上側物入れに損傷がないこと、水が溜まっていないことを確認します。 フード上側物入れが確実に固定されていることを確認します。	24
法定備品	使用可能条件を満たしている法定備品が、搭載されていることを確認します。	34
艇体外観	艇体外観に損傷がないことを確認します。	34
ジェットインテーク	ジェットインテークに損傷がないこと、また異物の付着や詰まりがないことを確認します。	34
フード	フードが確実に固定されていることを確認します。	35

項目	点検方法	参照ページ
進水後の点検		
冷却水点検孔	冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。	35

要　点

使用前の点検は、安全と信頼性を確保するためにマリンジェットを使用する毎に必ず実施してください。

JJU32282

使用前点検チェックポイント

JJU40686

進水前の点検

使用前点検チェックリストで進水前の点検に分類されている項目は、陸上で点検を行ないます。

進水前の点検を行なうときは：

(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については22ページを参照ください。）
(2) 各項目を点検し、不具合がないことを確認します。
(3) 進水前の点検が終了したら、フードを元のように確実に取り付けます。

JJU32334

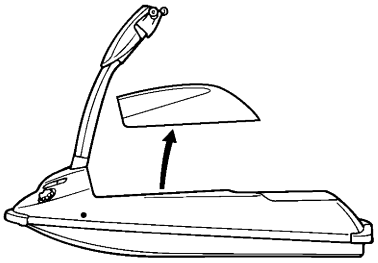
エンジンルームの点検

JWJ00462

⚠警　告

エンジンルームの換気を怠ると火災または爆発を生じる恐れがあります。エンジンルームに燃料漏れがあるときはエンジンを始動しないでください。

エンジンルームの換気を行ないます。燃料気化ガスが無くなるまで、数分間エンジンルームを開けたまま放置します。
エンジンルーム内に損傷がないことを確認します。



JJU34208

燃料系統の点検

JWJ00382

⚠警　告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で整備を受けてください。**

燃料系統の損傷、漏れ等、不具合がないことを確認します。

点検箇所

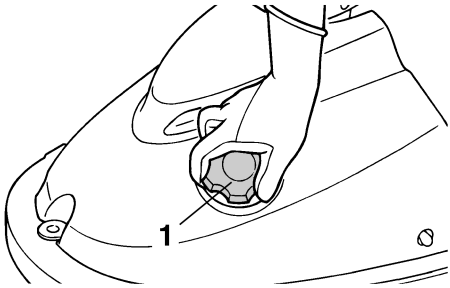
- キャブレターからの燃料漏れ
- 燃料フィラーキャップ（パッキン）の損傷
- 燃料タンク内への水の混入、またはゴミの有無
- 燃料タンクの損傷、燃料漏れ
- 燃料ホースと接続部の損傷、燃料漏れ
- 燃料フィルターからの燃料漏れ
- 燃料コックからの燃料漏れ
- 燃料ブリーザーホース経路の損傷、燃料漏れ

燃料タンク内圧の開放

燃料タンクの内圧を開放します。

燃料タンクの内圧を開放するときは：

(1) 燃料フィラーキャップを徐々に緩めて取り外し、燃料タンク内圧を開放します。



1 燃料フィラーキャップ

(2) 燃料フィラーキャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。

JJU32365

燃料残量の点検

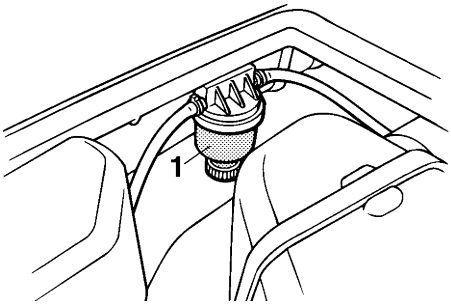
燃料タンク内の燃料残量を確認します。
必要な場合は燃料を給油します。（給油方法については 25 ページを参照ください。）

JJU32424

水分離器の点検

水分離器内に水が溜まっていないことを確認します。水が溜まっている場合は排水しま

す。（水分離器の排水については 21 ページを参照ください。）



1 水分離器

JJU40182

エンジン外観の点検

エンジン外観に損傷等、不具合がないことを確認します。

JJU41012

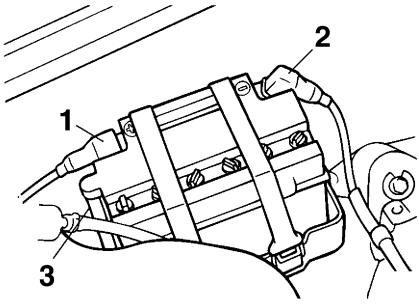
ビルジの点検

エンジンルーム内にビルジが溜まっていないことを確認します。ビルジが溜まっている場合は乾いた布で拭き取ります。***注意：*** **エンジンルームに多量のビルジが溜まると飛び散ってエンジンに入り、エンジン故障の原因となります。**[JCJ00342]

JJU32485

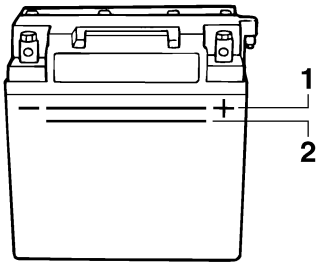
バッテリーの点検

バッテリー端子とブリーザーホースに損傷がないこと、また正しく接続されていることを確認します。**警告！ ブリーザーホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。**[JWJ00452]



1（＋）端子：赤色ケーブル
2（－）端子：黒色ケーブル
3 ブリーザーホース

バッテリーの液量が上限マークと下限マークの間にあることを確認します。**警告！ エンジンの始動に必要な容量がない、あるいは容量不足の兆候があるときは絶対にマリンジェットを使用しないでください。バッテリー容量がなくなると途中で立ち往生する恐れがあります。**[JWJ01241]



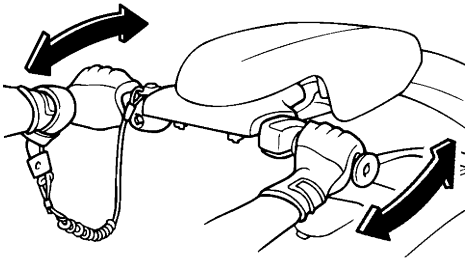
1 上限マーク
2 下限マーク

バッテリーが確実に固定されていることを確認します。

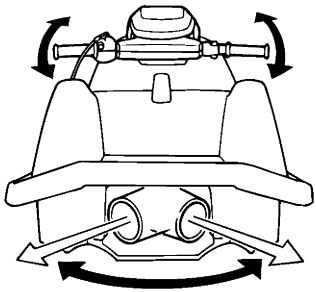
JJU32614

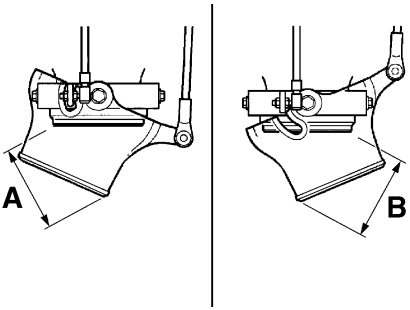
ステアリングシステムの作動点検

ハンドルバーを繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、著しいガタつきがないことを確認します。



ハンドルバーを左右いっぱいに繰り返し操作したとき、ハンドルバーの動きに応じてジェットノズルの向きが変わること、ジェットノズルの切れ角に左右の差がないことを確認します。



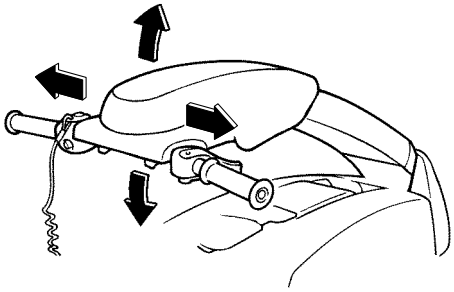


ジェットノズル切れ角（A と B の距離）の差：
5 mm 以内

JJU32623

ステアリングポールの作動点検

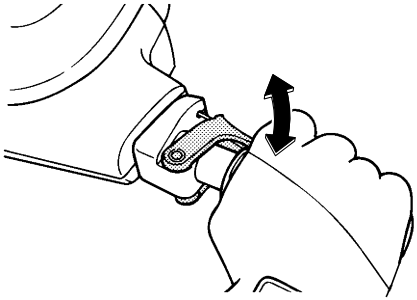
ステアリングポールを上下に繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、著しいガタつきがないことを確認します。また左右方向のガタがないことも確認します。



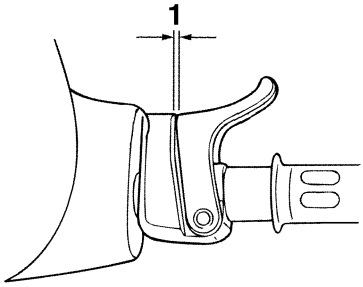
JJU32595

スロットルレバーの作動点検

スロットルレバーを繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、放したときに自動的に全閉位置に戻ることを確認します。



スロットルレバー全閉位置に適度な遊びがあることを確認します。



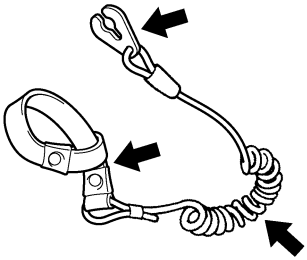
1 スロットルレバーの遊び

スロットルレバーの遊び量：
7.0–10.0 mm

JJU32664

緊急エンジン停止コード（ランヤード）の点検

緊急エンジン停止コード（ランヤード）に損傷がないことを確認します。緊急エンジン停止コード（ランヤード）の損傷があった場合は交換します。**警告！ 緊急エンジン停止コード（ランヤード）は決して補修したり繋ぎ合せて使用しないでください。操船者が落水したときにロックプレートが外れず、エンジンが停止しない状態でマリンジェットが航走を続け、重大な事故につながる恐れがあります。**[JWJ01221]



JJU41021

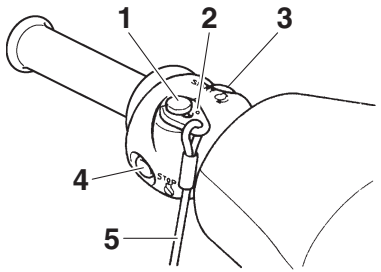
スイッチ類の作動点検

JCJ01361

注 意

エンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で15秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

エンジン始動スイッチ、エンジン停止スイッチ、緊急エンジン停止スイッチを操作し、正常に作動することを確認します。（各スイッチの操作については18ページから18ページを参照ください。）



1 緊急エンジン停止スイッチ
2 ロックプレート
3 エンジン始動スイッチ
4 エンジン停止スイッチ
5 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

スイッチ類の作動を確認するときは：

(1) エンジン始動スイッチを押して、エンジンが始動することを確認します。
(2) エンジンが始動したらすぐにエンジン停止スイッチを押して、エンジンが停止することを確認します。
(3) 再度エンジンを始動し、緊急エンジン停止コード（ランヤード）を引っ張って、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートが外れるとただちにエンジンが停止することを確認します。

JJU41211

フード裏物入れの点検

フード裏物入れに損傷がないこと、水が溜まっていないこと、確実に固定されていることを確認します。（フード裏物入れについては 23 ページを参照ください。）

JJU40122

法定備品の点検

使用可能条件を満たしている法定備品が、搭載されていることを確認します。（法定備品については、 12 ページを参照ください。）

JJU32353

艇体外観の点検

艇体に損傷等、不具合がないことを確認します。

JJU32657

ジェットインテークの点検

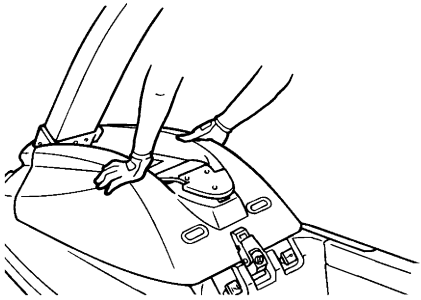
ジェットインテークに損傷がないこと、異物

の付着や詰まりがないことを確認します。異物が詰まっている場合は清掃します。（ジェットインテークについては 61 ページを参照ください。）

JJU40703

フードの点検

フードが確実に固定されていることを確認します。（フードについては 22 ページを参照ください。）



JJU41072

フード上側物入れの点検

フード上側物入れに損傷がないこと、水が溜まっていないこと、確実に固定されていることを確認します。（フード上側物入れについては 24 ページを参照ください。）

JJU40146

進水後の点検

使用前点検チェックリストで進水後の点検に分類されている項目は、マリンジェットを水に浮かべてエンジンを始動した後に点検を行ないます。

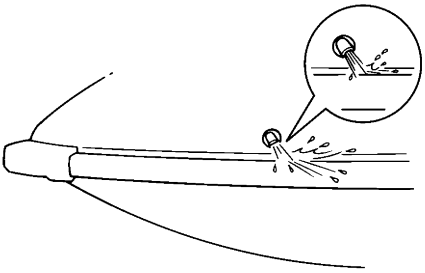
進水後の点検を行なうときは：

(1) マリンジェットを進水します。（マリンジェットの進水については37ページを参照ください。）
(2) 各項目を点検し、不具合がないことを確認します。

JJU40553

冷却水点検孔の点検

冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。（冷却水点検孔については 20 ページを参照ください。）



JJU32903

操船するときは

JWJ00511

⚠警　告

マリンジェットに乗る前には、基本操作を十分に理解してください。操作方法が良く判からない場合はヤマハ取扱店にご相談ください。理解できないまま操船すると事故を起す恐れがあります。

JJU35623

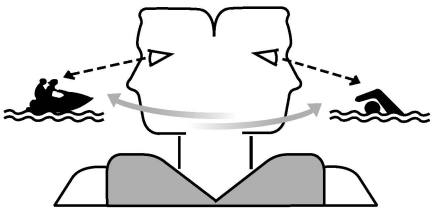
使用の前に

マリンジェットの操船には練習を通して得られる技術が必要です。高度な技量を要する操船に挑戦する前に、基本的な技術を時間をかけて習得するようにしてください。
マリンジェットを楽しむためには、まず操作によく慣れ、安全に操船するための技術を覚えることが重要です。乗船前には必ず本書と操船の手引きをお読みいただき、操船方法を理解してください。特に 7 ページから始まる「安全情報」をよくお読みください。また、全てのラベルを必ずお読みください。
このマリンジェットは操船者のみしか乗船できません。2 人以上で乗船することは、絶対にしないでください。

JJU35656

操船の前に

乗船前には必ず 29 ページの「使用前点検チェックリスト」に沿って点検を行なってください。
マリンジェットに乗船する前には関連規則の全てをご確認ください。
控えめな安全速度で、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保って航走してください。



操船の練習は視界が良好で船舶等の交通量が少ない広い場所で行なってください。
陸岸から離れて操船するときは、単独で行動しないでください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。
ハンドルバーをしっかりと握り、素早く乗り込んで立つ姿勢（スタンディング）、またはひざまずく姿勢（ニーリング）をとってください。マリンジェットが航走中は、両足または両膝をライディングトレイに乗せておいて下さい。

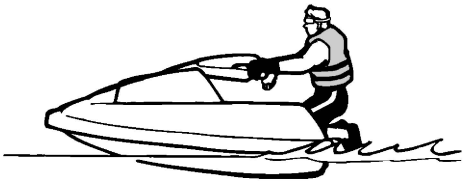
JJU33172

操船姿勢

操船時の姿勢は速度、操船者の技量レベルや好みにより次のような、ひざまずく姿勢と立つ姿勢を選べます。

ひざまずく姿勢（ニーリング）

ひざまずく姿勢は立つ姿勢よりバランスが取りやすく、サブプレーニング速度での航走に適しています。



速度が極端に遅い時は、上体の重さを支える

ために、両肘をガンネルの上に置き、両足を後方の水の中に入れる姿勢をとる必要が有る場合もあります。

立つ姿勢（スタンディング）

ひざまずく姿勢での操船が楽に行えるようになったら、速度を上げて立ってみましょう。マリンジェットはジェット推進力により、方向性が良くなるだけでなく安定性もよくなるので、速度が増すにつれてバランスが取りやすくなります。低速で航走している場合や、停船しようとする前にはバランスを取るためにひざまずく姿勢をとります。

JJU32822

マリンジェットの進水

マリンジェットを進水するときは、周囲に障害物がないことを確認します。またトレーラーから進水するときは、波によってマリンジェットがトレーラーに押し込まれないようにしてください。

水に浮かべてから、船首を進みたい方向に向けて回転させます。

JJU32836

出航・乗船時のエンジンの始動

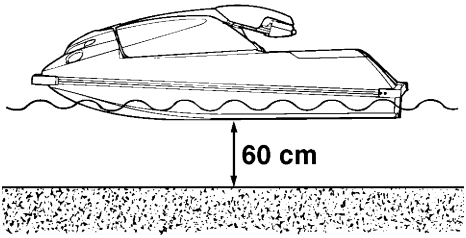
JWJ01521

⚠警　告

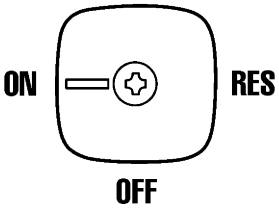
マリンジェットの後方に人等がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドリング回転数にしてください。スロットルを開けるとジェットノズルから噴出される水や異物で大きな怪我をする恐れがあります。

エンジンを始動するときは：

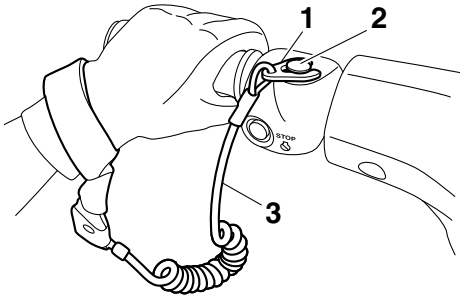
(1) 海藻やゴミが無く、船底から水底までの距離が 60 cm 以上のところまで、マリンジェットを移動します。***注意：*船底から水底までの距離が60 cm未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。**[JCJ00473]



(2) 燃料コックを “ON” 位置にします。

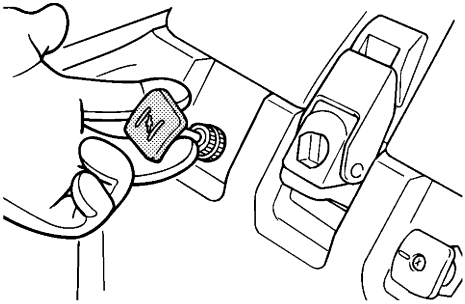


(3) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。（緊急エンジン停止スイッチの操作については、18 ページを参照ください。）**警告！ 緊急エンジン停止コード（ランヤード）が正しく取り付けられていることを確認してください。正しく装着していないと、操船者が落水したときにロックプレートが外れず、エンジンが停止しない状態でマリンジェットが航走を続け、重大な事故につながる恐れがあります。**[JWJ00582]



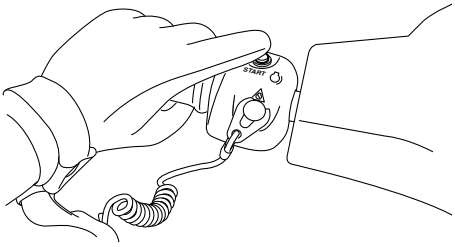
1 ロックプレート
2 緊急エンジン停止スイッチ
3 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

(4) エンジンが冷えているときは、チョークノブをいっぱいに引きます。



要　点
エンジンが十分暖まっているときは、チョークを使用する必要はありません。

(5) スロットルレバーを軽く握りながら、エンジン始動スイッチ（緑色ボタン）を押して、エンジンを始動します。（エンジン始動スイッチの操作については、18ページを参照ください。）**警告！ エンジンを始動するときは、スロットルレバーを急激に握らないでください。マリンジェットが急発進し、衝突や落水の原因となります。**[JWJ00592]



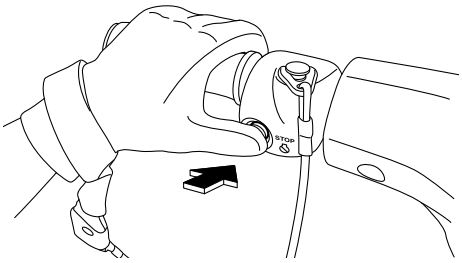
(6) エンジンが暖まったら、チョークノブを元の位置まで押し込みます。

要　点
チョークノブを引いたままにしておくとエンジンが停止してしまいます。

JJU32863

エンジンの停止

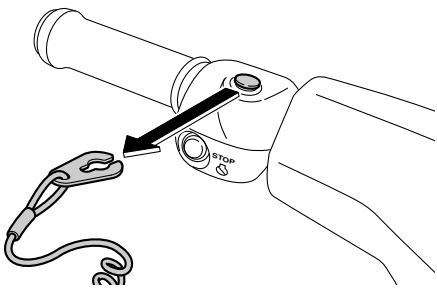
スロットルレバーを放し、エンジン停止スイッチ（赤色ボタン）を押してエンジンを停止します。**警告！ 進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。エンジンを停止すると障害物を回避できずに衝突し、重大な事故の原因になります。**[JWJ00602]



JJU32873

マリンジェットから離れるとき

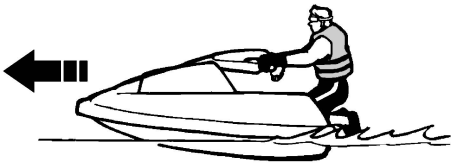
マリンジェットから離れるときは、不意のエンジン始動や子供等が操作することを防止するために、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチから取り外してください。



JJU41172

マリンジェットの航走

マリンジェットは、エンジン運転中はスロットルレバーが全閉状態でもトローリング速度で前進します。



JJU33244

マリンジェットの旋回

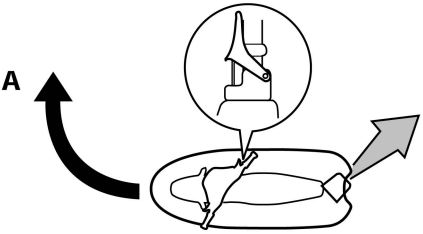
JWJ00762

⚠警　告

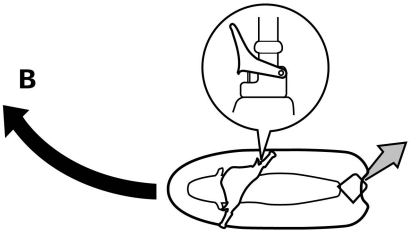
- **障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。**
- **高速航走時は徐々に旋回を行なうか、または旋回前に速度を落としてください。高速で鋭角に旋回しようとすると、マリンジェットがスライド（横スベリ）したり、スピンしたりする要因になります。乗船者がマリンジェットから放り出され、負傷する可能性が高くなります。**

旋回はスロットルとハンドル操作を併用して行ないます。
ジェットインテークから取り入れられた水がジェットポンプのインペラで加圧されます。加圧された水がジェットノズルから放出されることにより推進力を生み出し、マリンジェットを動かし、旋回させます。
エンジン回転数が高いほど、より大きな推進力が生じます。
旋回半径は、ステアリングハンドルの切れ角度だけでなく、ジェット推進力の強弱によっても変化します。

A. スロットルが生み出す推進力が大きいほど、より鋭角的に旋回します。

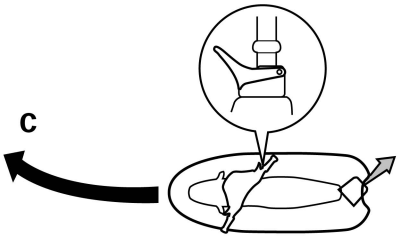


B. スロットルが生み出す推進力が小さいほど、より緩やかに旋回します。

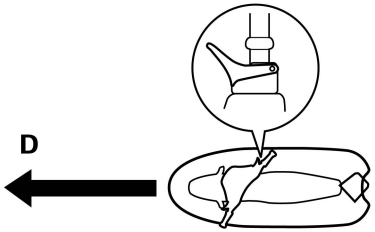


C. スロットルレバーから完全に手を放すと推進力は最小になります。トローリング速度以上で航走しているとき、スロットルを戻してしまうと旋回能力は急激に低下します。スロットルレバーから手を放した直後はまだある程度の旋回能力が残っていますが、一旦エンジン回転が落ちてしまうと、再度スロットルを開けるか、艇がトローリング速度に到達するまでマリンジェットはステアリング

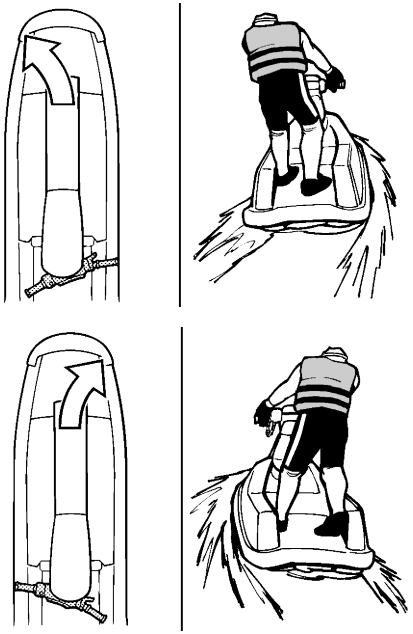
ハンドル操作に反応しません。
トローリング速度で航走中は、アイドリング回転の推進力のみでもステアリングハンドルを操作するだけで緩やかに旋回できます。



D. エンジンが停止すると推進力がなくなります。この場合、ステアリングハンドルを進みたい方向へ向けてもマリンジェットはそのまま直進します。



進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。
バランスを保つため、旋回するときは旋回方向に身体を傾けます。傾ける度合いは旋回半径の大きさやスピードに左右されますが、速いスピードで鋭角な旋回をする場合にはより深く身体を傾ける必要があります。

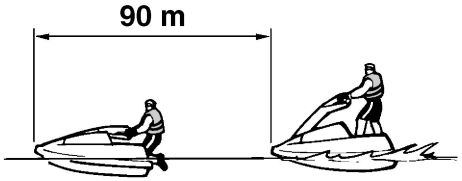


JJU33273

マリンジェットの停船

マリンジェットにはブレーキ装置が有りません。スロットルレバーを放したときに水の抵抗によって減速します。フルスピードからはスロットルレバーを全閉にしたり、エンジンを停止させてもマリンジェットは停船するまでに約 90 m ほど進みます。この停船距離は総重量、水面の状態、風向きによって異なりますので目安としてください。マリンジェットはスロットルレバーを放すと減速しますが、完全に停船するまである程度の距離を航走します。障害物まで十分な停船距離（時間）がなく衝突する恐れのあるときは、スロットルレバーとハンドル操作で旋回して障害物を回避してください。

操船するときは



JWJ00723

⚠警　告

- 停船するときには十分な停止距離を確保してください。
- 早めに行動を起し衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 控えめな安全速度で航走し、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保ち、余裕をもって停船できるようにしてください。
- 減速しているとき、進路上に船舶や障害物等が有る場合は、エンジン出力を使って回避する必要がありますので、エンジンは停止しないでください。

JJU33075

出航

JWJ00712

⚠警　告

次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。
- 気を抜かないで航走してください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。
- 他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。急旋回等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。
- 早めに行動を起こし衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。

JWJ00633

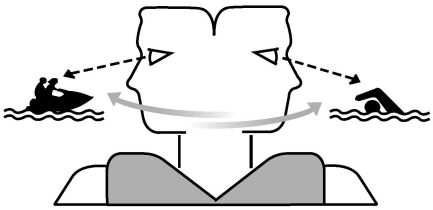
⚠警　告

再乗船の際は、強いジェット噴流にさらされないよう、視界が制限されないよう気をつけてください。素早く乗込んで立つ姿勢かひざまづく姿勢をとってください。

JCJ01341

注　意

船底から水底までの距離が60 cm未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。



停船中や低速航走中はマリンジェットが不安定になります。特に出航するときに安定した状態を保つには技量が必要となります。
ひざまずく姿勢で航走し、重心を低くまた艇の中心になるようにすることで、プレーニング速度への加速中にマリンジェットを安定させることができます。
浅瀬からの出航が容易であっても、深いところでの再乗船を最初に練習し、浜辺から離れたところで落水したとき確実に再乗船できるようにしてください。

JJU33105

浅瀬からの乗船と出航

背が立たないような深いところに行く前に、深いところでの乗船と出航の方法を確実に身につけてください。（深いところでの乗船と出航については 42 ページを参照ください。）

(1) 海藻やゴミが無く、船底から水底までの距離が 60 cm 以上のところで、マリンジェットを進水させます。***注意：*** **船底から水底までの距離が60 cm未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。**[JCJ00473]

(2) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。

(3) 両手でハンドルバーを握り、片方の膝をライディングトレイにのせバランスを取ります。

(4) 周囲を確認し、エンジンを始動して加速します。

(5) スピードが上がったらもう片方の膝をライディングトレイにのせます。

(6) ステアリング操作のじゃまにならない程度に体を前へ移動させ、体重を低く前方にかけ、身体を垂直に保ってください。

要　点

マリンジェットはジェット推進力により、方向性が良くなるだけでなく安定性も良くなるので、速度が増すにつれてバランスが取りやすくなります。

JJU33125

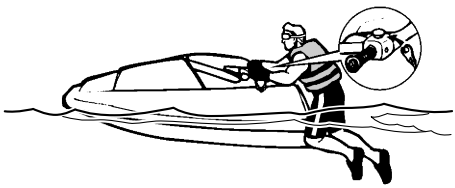
深いところでの乗船と出航

JWJ01261

⚠警　告

操船者は、乗船前に海岸の近くで水中からの乗船の練習を十分に行なってください。何回試みてもマリンジェットに再乗船できない場合、疲労や怪我をしたり、溺れたりする危険性が増大します。

(1) マリンジェットの後方まで泳ぎ、緊急エンジン停止コード（ランヤード）を左手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。



(2) 両手でハンドルバーを握り、ガンネルに肘を置いてライディングトレイに体を引き上げバランスを取ります。

(3) 周囲を確認し、エンジンを始動して加速します。
(4) マリンジェットを加速させながら、体をマリンジェットの上に引き上げていきます。
(5) ライディングトレイに膝をのせ、できるだけ早くひざまずく姿勢をとります。

(6) ステアリング操作のじゃまにならない程度に体を前へ移動させ、体重を低く前方にかけ、身体を垂直に保ってください。
(7) 船首が下がり、マリンジェットが水面と水平になりプレーニング速度に到達したら、スロットルを操作し好みの速度に調節してください。

要　点

- マリンジェットはジェット推進力により、方向性が良くなるだけでなく安定性も良くなるので、速度が増すにつれてバランスが取りやすくなります。
- 体重が重い人は軽い人よりプレーニング速度に到達するまでの時間がかかります。

JJU33205

転覆したときには

JWJ00672

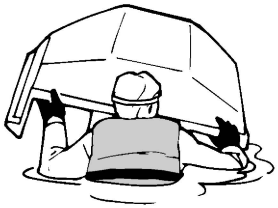
⚠警　告

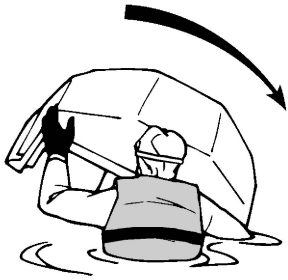
誤った引き起しをすると負傷する恐れがあります。
- **緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。**
- **ジェットインテークには手を掛けないでください。**

マリンジェットが転覆した場合は、すみやかに引き起こします。

マリンジェットを引き起こすときは：

(1) 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外します。
(2) マリンジェットの後方まで泳ぎ、時計回りに回転させます。
転覆したマリンジェットの左舷が上に傾いている場合は、最初にガンネルに体重をかけてマリンジェットの左舷が下になるようにしてから時計回りに回転させてください。***注意：*** **マリンジェットを反時計回りで引き起さないでください。水がエンジン内に浸入し、故障の原因となります。** [JCJ00542]





(3) エンジンを始動してプレーニング速度で航走を開始し、エンジンルーム内のビルジを排水します。（ビルジの排水については、26 ページを参照ください。エンジンが始動しない場合は、63 ページの「マリンジェットの曳航」または 63 ページの「水没時の処置」を参照ください。）***注意：*** **エンジン再始動後 1 分間は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。溜まっているビルジが飛び散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。**[JCJ00554]

JJU33303

マリンジェットの着岸

海岸へ着岸するときは：

(1) 遊泳者、障害物、船舶等が海岸付近にいないことを確認します。
(2) 海岸から約 90 m のところでスロットルレバーを放し、減速をはじめます。
(3) ゆっくりと岸に近づき着岸地点の手前でエンジンを停止します。**警告！ 進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。エンジンを停止すると障害物を回避できずに衝突し、重大な事故の原因になります。**[JWJ00602] ***注意：*** **船底から水底までの距離が 60 cm 未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。**[JCJ00473]
(4) マリンジェットから降りて岸に引き上げます。

JJU37194

海藻が密生している場所での航走

海藻が密生している場所での使用は避けてください。密生箇所の通過が避けられない場合は、スロットルレバーを握る・緩める操作を繰り返し行ない、速度に変化をつけて航走してください。速度が一定のときやトローリング速度での航走の方が海藻は詰まりやすくなります。海藻がジェットインテークに詰まったと思われる場合は、ジェットインテークの清掃を行なってください。（ジェットインテークについては61ページを参照ください。）

JJU41061

陸揚げしたときには

JCJ01361

注　意

エンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で15秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

マリンジェットの航走を終了し陸揚げしたときは、すみやかに冷却経路に残った水を排水します。

冷却経路から排水するときは：

(1) 周囲を確認し、エンジンを始動します。
(2) 10 ～ 15 秒間内にスロットルレバーを握る・放す操作を数回素早く繰り返し行ない、冷却経路に残っている水を排水します。
(3) エンジンを停止します。

保管するときは

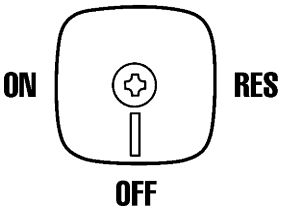
JJU41192

使用後のお手入れ

JWJ00321

⚠警　告

マリンジェットを保管する場合は燃料コックを必ず“OFF”位置にしてください。ガソリンが漏れてエンジンやエンジンルーム内に入って火災を起す恐れがあります。



使用後は毎回確実にマリンジェットを陸揚げして、各部を洗浄し保管します。マリンジェットを長期間にわたって水上に放置しておくと、ジェットポンプや艇体を劣化させる原因となります。また、電蝕、海藻や貝類の付着、塩水による腐食は各部品の寿命を縮める原因となります。

JJU3351A

エンジン冷却経路の水洗

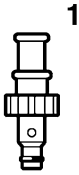
JCJ01361

注　意

エンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で15秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

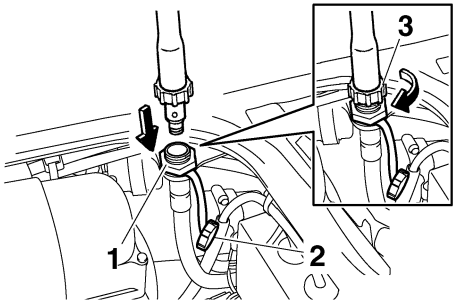
塩、砂、ゴミなどによる目詰まりを防止するために、エンジン冷却経路を水洗します。

(1) マリンジェットを水平に置きます。
(2) フードを取り外します。（フードの脱着方法については22ページを参照ください。）
(3) 水道水ホースアダプターを水道水ホースに取り付けます。



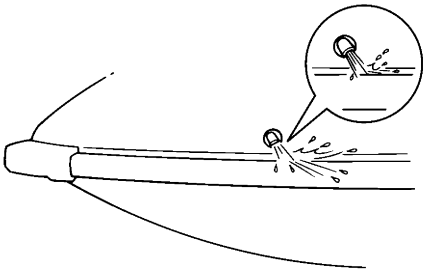
1 水道水ホースアダプター

(4) 水洗ホースコネクターキャップを緩めて取り外します。水道水ホースアダプターを、水洗ホースコネクターに押し込み、回転させて確実に固定します。



1 水洗ホースコネクター
2 水洗ホースコネクターキャップ
3 水道水ホースアダプター

(5) 水道水ホースを水道の蛇口に接続します。
(6) 周囲を確認し、エンジンを始動します。始動後はただちに、冷却水点検孔から水が連続的に排水されるよう水道水バルブを徐々に開きます。



(7) アイドリング回転数でエンジンの運転状態を見ながら約３分間運転します。もし途中でエンジンが止まったときは、ただちに水道水の供給を止めて再度手順６から行ないます。***注意：*エンジンが停止しているときは絶対に冷却経路に水道水を供給しないでください。水がマフラーからエンジン内に逆流し、重大なエンジンの損傷をまねく恐れがあります。**

[JCJ00123]

(8) 水道水の供給を停止します。
(9) １０～１５秒間内にスロットルレバーを握る･放す操作を数回素早く繰り返し行ない、冷却経路に残っている水を排水します。
(10) エンジンを停止します。
(11) 水道水ホースアダプターを取り外し、水洗ホースコネクターキャップを止まるまで締めこみ確実に取り付けます。
(12) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU40722

艇体各部の水洗

(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については22ページを参照ください。）
(2) エンジンとエンジンルームを少量の水で水洗します。***注意：*高圧の水でエンジンやエンジンルームを洗浄しないでください。重大な損傷の原因となります。**

[JCJ00572]

(3) エンジンとエンジンルームを乾いた布で拭きます。
(4) 艇体各部、ジェットポンプを水洗します。
(5) 艇体各部、ジェットポンプを乾いた布で拭きます。
(6) ビニール、その他のゴム部分は全て中性洗剤を使って拭きます。
(7) 腐食を防止するため、艇体とエンジンの各金属部に防錆剤を噴霧します。
(8) フードを取り付ける前に、エンジンルームを外気にあて完全に乾燥させます。
(9) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU33687

バッテリーのお手入れ

マリンジェットを１ヶ月以上使用しないときは、バッテリーをマリンジェットから取り外し各部を確認後、乾いた涼しくて暗い場所に保管します。

JWJ00792

⚠警　告

バッテリー取り扱い上のご注意

- **バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので取り扱いを誤ると爆発し怪我をすることがあります。**
- **バッテリーの液量が下限マーク以下の状態で使用または充電すると、バッテリーの劣化を早めたり、爆発の原因となる恐れがあります。**
- **火気厳禁＝ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。**
- **補充電は風通しの良いところで行なってください。**
- **落下等の強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリーを横にしないようにしてください。バッテリー液がこぼれる可能性があります。**
- **バッテリー液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

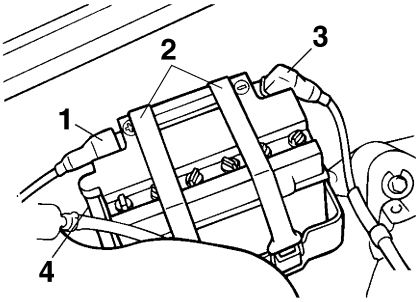
- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服に付着したときはただちに大量の水で洗い流してください。**

保管するときは

● 目に入ったときはただちに大量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

バッテリーを取り外すときは：

(1) まず最初にバッテリーの（−）端子から黒色ケーブルを外します。
(2) 次に（+）端子から赤色ケーブルを外します。
(3) ブリーザーホースを取り外します。
(4) バッテリー固定バンドを取り外し、バッテリーをマリンジェットから取り外します。



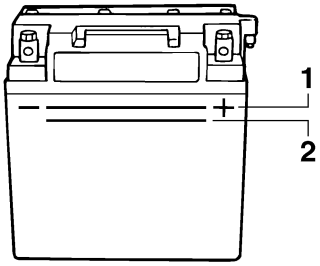
1（+）端子：赤色ケーブル
2 バッテリー固定バンド
3（−）端子：黒色ケーブル
4 ブリーザーホース

バッテリー各部の確認

- バッテリー本体に損傷がないことを確認します。
- バッテリー端子に腐食、損傷がないことを確認します。
- ブリーザーホースに損傷や詰まりがないことを確認します。

バッテリー液量の確認

バッテリー液の液面が上限マークと下限マークの間にあることを確認します。
バッテリー液が少ない場合は、蒸留水を規定範囲内まで補充します。***注意：*** **補充には必ず蒸留水を使用してください。蒸留水以外を使用すると、バッテリーの寿命を縮める原因となります。**[JCJ00242]

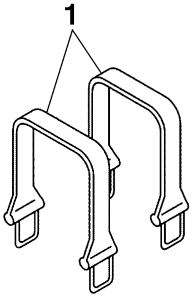


1 上限マーク
2 下限マーク

蒸留水を補充した場合は、電圧点検が必要です。
バッテリー電圧の点検や補充電は、ヤマハ取扱店またはバッテリーの取扱店で行なうことをお奨めします。ご自身でこの作業を行なう場合は、充電機器に付属の指示をよく読んで、その指示に従ってください。***注意：*** **急速充電は行なわないでください。バッテリーの寿命を縮める原因となります。**[JCJ00252]

バッテリー固定バンドの確認

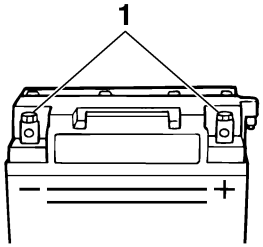
バッテリー固定バンドに損傷がないことを確認します。



1 バッテリー固定バンド

バッテリーを保管するときは：

(1) 水道水でバッテリー外側を清掃します。
(2) 電極端子部の汚れを、ワイヤーブラシ等を使用して磨きます。



1 電極端子

(3) 電極端子に耐水グリスを塗布します。

推奨耐水グリス：
ヤマハグリス A

(4) 乾いた涼しくて暗い場所に保管します。***注意：*** **バッテリーを充電しない状態で放置すると、使用できなくなる恐れがあります。バッテリーは定期的に確認を行なってください。**[JCJ00103]

バッテリーを取り付けるときは：

(1) バッテリーを所定の場所に置き、バッテリー固定バンドを取り付けて固定します。
(2) まず最初に赤色ケーブルを（＋）端子に取り付けます。***注意：*** **（＋）端子と（−）端子を逆に接続すると、電装部品の故障の原因となります。**[JCJ00262]
(3) 次に黒色ケーブルを（−）端子に取り付けます。
(4) ブリーザーホースをバッテリーに接続します。**警告！ ブリーザーホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。**[JWJ00452]
(5) バッテリーが所定の場所に確実に固定されていることを確認します。

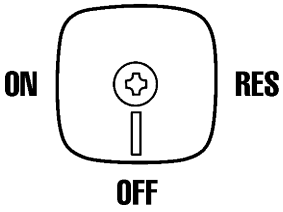
JJU33484

長期保管

JWJ00321

⚠警 告

マリンジェットを保管する場合は燃料コックを必ず “OFF” 位置にしてください。ガソリンが漏れてエンジンやエンジンルーム内に入って火災を起す恐れがあります。



冬場など長期間にわたってマリンジェットを保管する場合は、劣化防止のための整備が必要です。保管の前にヤマハ取扱店による格納整備を受けることをお奨めします。
格納整備の中で簡易的に作業できる次の項目については、ご自身で行なうことができます。

JJU40752

各部の洗浄

(1) エンジン冷却経路の水洗を行ないます。（エンジン冷却経路の水洗については45 ページを参照ください。）

要　点

マリンジェットを長期保管する前には、燃料タンクを新しいガソリンで満たし、ガソリン 1 L に対して約 8 mL のヤマハ純正燃料安定剤を加えてから、エンジンを始動してください。

(2) 艇体各部の水洗を行ないます。（艇体各部の水洗については46ページを参照ください。）
艇体各部の水洗後は、艇体外部にヤマハボートワックスを塗ってください。

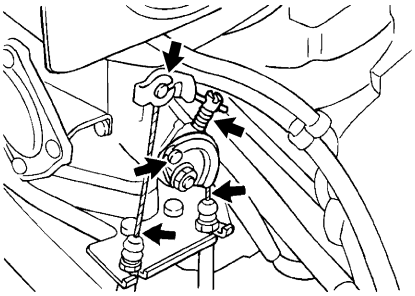
JJU40774

各部の潤滑

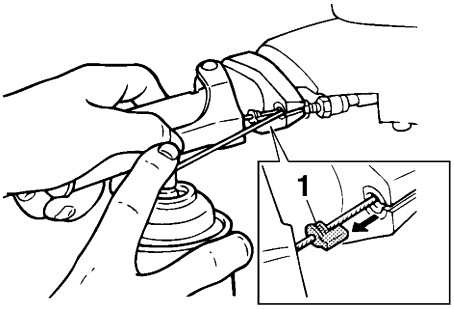
ケーブル類の潤滑と同時に汚れや水分を洗い流すため、インナーケーブルとアウターケーブルの間に潤滑剤（耐水性のグリススプレー）を噴霧します。
可動部分の摺動や回転を滑らかにするために耐水グリスを塗布します。

推奨耐水グリス：
ヤマハグリス A

- スロットルケーブル（キャブレター側）とチョークケーブル（キャブレター側）

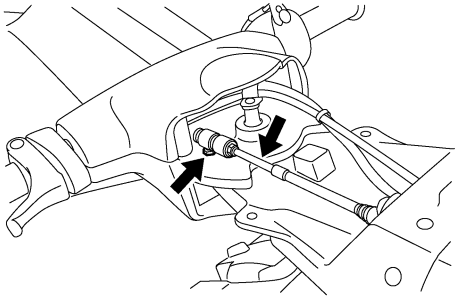


- スロットルケーブル（スロットルレバー側）
  スロットルレバーを握りシールを取り外します。スロットルケーブルの内側に防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）を噴霧して、シールを元の位置に確実に取り付けます。

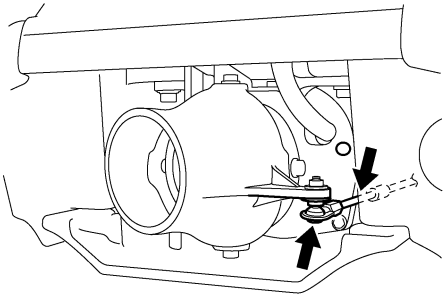


1 シール

- ステアリングケーブルボールジョイント（ハンドルバー側）とステアリングケーブルインナーワイヤー（ハンドルバー側）
  ステアリングパッドを取り外します。（ステアリングパッドの脱着方法については、52 ページ、“ ジェットノズル切れ角の調整 ” の手順 1 を参照ください。）



- ステアリングケーブルボールジョイント（ジェットノズル側）とステアリングケーブルインナーワイヤー（ジェットノズル側）



JJU40962

各部の防錆

JCJ01361

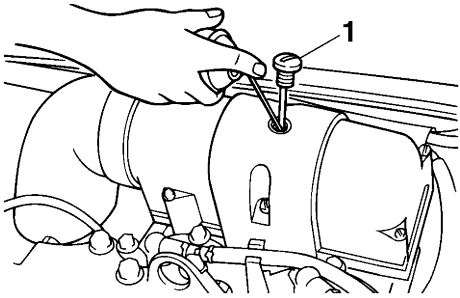
注　意

エンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で15秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）を艇体とエンジンの各金属部分に噴霧します。

エンジン内部を防錆するときは：

(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については、22 ページを参照ください。）
(2) サイレンサーカバーキャップを緩めて取り外します。



1 サイレンサーカバーキャップ

(3) 換気のいい場所で、周囲を確認しエンジンを始動します。
(4) エンジンをアイドリング回転数より少し高めの回転数で運転します。
(5) サイレンサーカバー孔からできるだけ多量の防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）を素早く噴霧します。エンジンが失速して停止するまで（または最大 15 秒間）噴霧し続けます。**警告！ サイレンサーカバー孔からガソリンや、エンジン防錆剤以外の物質は絶対に入れないでください。エンジンが熱いときは、可燃性の防錆潤滑剤を噴霧しないでください。火災や爆発の恐れがあります。**
[JWJ00302]
(6) サイレンサーカバーキャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。***注意：*** **防錆剤をエンジンへ噴霧した後は必ずキャップを確実に取り付けてください。そのままにしておくと水がエンジンに入って故障の原因となります。**
[JCJ00153]
(7) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU35827

整備と点検

定期的な点検や給脂を行ない、マリンジェットを可能な限り安全で良好な状態に保つため適切な整備を実施することは所有者の責任です。必ず定期点検を実施してください。交換部品が必要なときはヤマハ取扱店にご相談ください。ヤマハ純正部品もしくは同等品以外の取り付けにより生じた故障は、保証の対象とならないことをご承知おきください。

JWJ00312

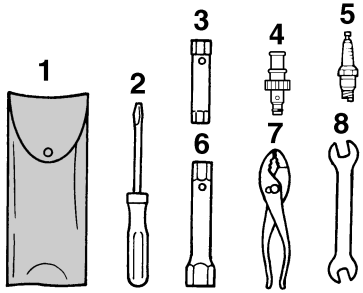
⚠警　告

本書で指示なき作業等を行なうときは、必ずエンジンを止めてください。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、作業をヤマハ取扱店に依頼してください。

JJU33803

工具セット

マリンジェットには工具セットが付属しています。マリンジェットを使用するときは、防水バッグに入れて常に携行してください。



1 工具袋
2 スクリュードライバー
3 10–12 mm ボックスレンチ
4 水道水ホースアダプター
5 スパークプラグ（気筒数と同数）
6 14–21 mm ボックスレンチ
7 プライヤー
8 10–12 mm 両口スパナ

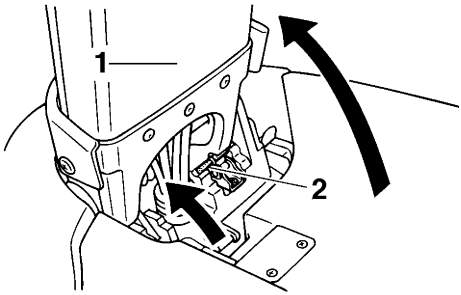
JJU34337

ステアリング操作荷重の調整

ステアリング操作荷重は操船者の好みにより調整することができます。

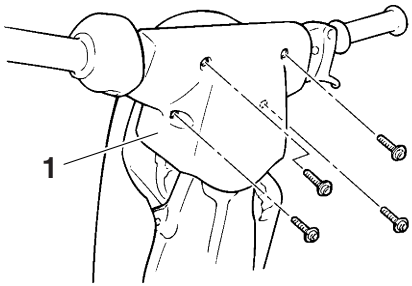
<u>ステアリング操作荷重を調整するときは：</u>

(1) ステアリングポールを持ち上げ、ロックピンをポールのツメに掛けて支えます。



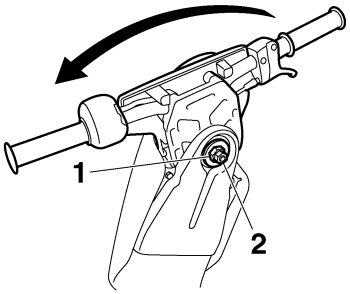
1 ステアリングポール
2 ロックピン

(2) ４本のスクリューを取り外し、ハンドルカバーを取り外します。



1 ハンドルカバー

(3) 左舷側のハンドルバーグリップが下になるように、ハンドルバーをいっぱいまで切ります。
(4) ロックナットを緩めます。
(5) 調整ナットを締めたり緩めたりして、ステアリング操作荷重を調整します。



1 調整ナット
2 ロックナット

(6) 調整ナットをレンチで固定し、ロックナットを規定トルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
29.0 Nm (2.96 kgf-m)

(7) ハンドルカバーと 4 本のスクリューを元のように確実に取り付けます。
(8) ステアリングポールを支えながらロックピンを外し、ステアリングポールを下ろします。

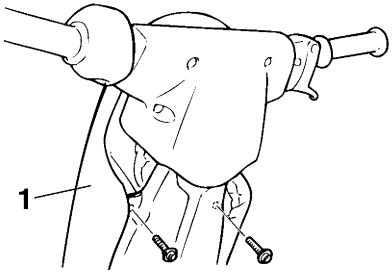
JJU31289

ジェットノズル切れ角の調整

ジェットノズルの切れ角は、操船者の好みにより 2 段階に調整することができます。

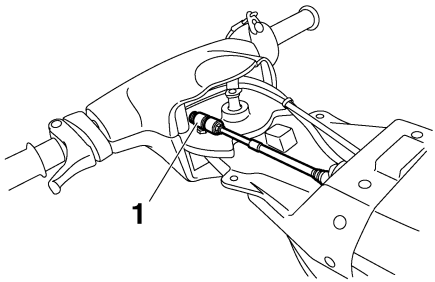
ジェットノズル切れ角を調整するときは：

(1) 2 本のボルトを取り外し、ステアリングパッドを取り外します。



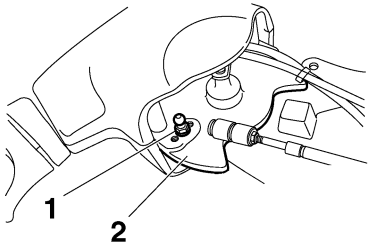
1 ステアリングパッド

(2) ステアリングケーブルジョイントのアウタースリーブを引っぱり、ステアリングケーブルピボットボルトからステアリングケーブルジョイントを取り外します。



1 ステアリングケーブルジョイント

(3) ステアリングケーブルピボットボルトを取り外します。

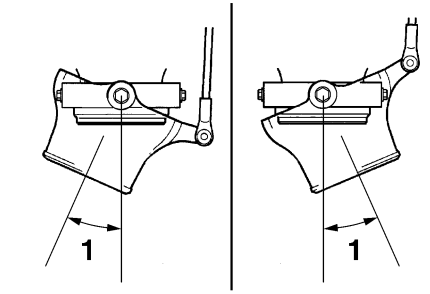


1 ステアリングケーブルピボットボルト
2 ステアリングコラム

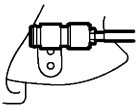
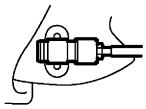
(4) ジェットノズル切れ角を選択し、ステアリングケーブルピボットボルトをロックワッシャーと一緒にステアリングコラムの P1 または P2 の位置に取り付け、規定トルクで締め付けます。

要　点

ステアリングコラムの一番外側の穴は使用できません。



1 ジェットノズルの切れ角

1	2
14.4°	 **P1**
17.3°	 **P2**

1 ジェットノズルの切れ角
2 ステアリングケーブルピボットボルト取り付け位置

標準ステアリングケーブルピボットボルト取り付け位置：
P2
締め付けトルク：
ステアリングケーブルピボットボルト：
5.4 Nm (0.55 kgf-m)

(5) ステアリングケーブルジョイントをステアリングケーブルピボットボルトに確実に取り付けます。
(6) ステアリングパッドと 2 本のボルトを元のように確実に取り付けます。

JJU40831

定期点検表

定期点検表は一般的な点検時期を記載しています。点検表に基づきお買い上げのヤマハ取扱店で点検を受けてください。点検時期は使用状態によって異なります。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。
“●” の印は所有者ご自身でできる点検項目です。
“○” の印はヤマハ取扱店が行う点検整備項目です。

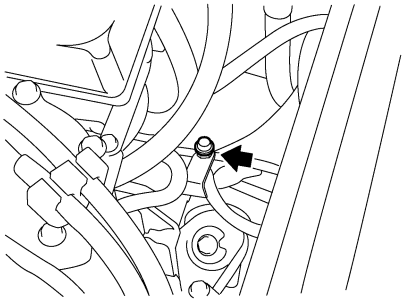
項目	作業内容	初回	次回以降				参照ページ
		10時間	50時間毎		100時間毎	200時間毎	
			6ヶ月毎	12ヶ月毎	12ヶ月毎	24ヶ月毎	
スパークプラグ	点検、清掃、交換	●/○	●/○		●/○		55
グリスポイント	グリス塗布				●/○		48
中間ハウジング	グリス注入	○			●/○		55
燃料系統	点検				○		—
燃料フィルター	点検	●				●	55
	点検、交換	○				○	—
燃料タンク	点検、清掃					○	—
キャブレター調整	点検、調整	○			○		—
アイドリング回転数	点検、調整				●/○		56
キャブレタースロットルシャフト	点検				○		—
ビルジストレーナー	清掃				○		—
インペラ	点検				○		—
ジェットノズル切れ角	点検、調整				○		—
ステアリングピボットシャフト	点検、調整	○			○		—
ステアリング操作荷重	点検、調整	○			○		—
スロットルケーブル	点検、調整	○			○		—
チョークケーブル	点検、調整				●/○		56
バッテリー	点検、充電				○		—
ラバーカプリング	点検					○	—
マウントラバー	点検					○	—
ボルトおよびナット類	点検	○			○		—

JJU41181
グリスポイント
可動部分に耐水グリスを塗布、注入します。（主なグリスポイントについては、48 ページを参照ください。）

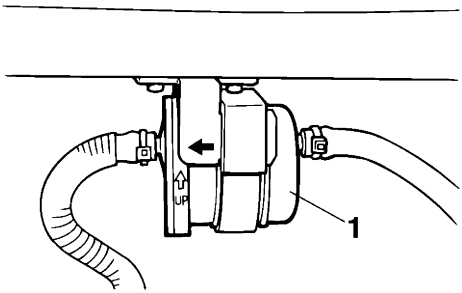
推奨耐水グリス：
ヤマハグリス A

中間ハウジング
グリスガンを使ってグリスニップルより規定容量のグリスを注入します。

グリス注入量：
初回 10 時間または 1ヶ月：
20.0–22.0 cm^3
100 時間または 12ヶ月毎：
3.0–5.0 cm^3



JJU34226
燃料フィルターの点検
燃料フィルターを点検します。燃料フィルターにゴミや水が混入している場合は交換する必要があります。交換が必要な場合は、ヤマハ取扱店で整備を受けてください。



1 燃料フィルタ

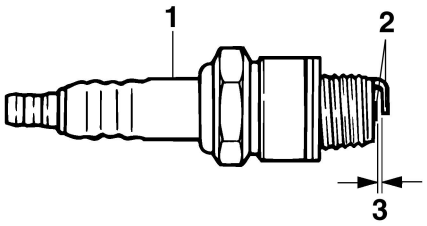
JJU3437A
スパークプラグの点検
JWJ00351

⚠警　告

スパークプラグの脱着は碍子部分を破損させないように注意して行なってください。碍子が破損すると漏電の原因となり爆発や火災の要因となる恐れがあります。

スパークプラグを点検します。
スパークプラグの状態でエンジンの状態もある程度判ります。例えば中心電極部が白いときは、そのシリンダーの吸気漏れまたは気化に問題がある可能性があります。そのような場合は自分で診断しようとせずに、ヤマハ取扱店にご相談ください。
スパークプラグを取り外すときは：
(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については、22 ページを参照ください。）
(2) スパークプラグキャップを取り外します。
(3) スパークプラグを取り外し、電極部の状態・隙間を確認します。電極部の著しい変色・電極の消耗、電極隙間値の不良・汚れがある場合は、新しいスパークプラグと交換します。

要　点
エンジンが適正に作動しているときは、スパークプラグの電極部は薄褐色をしています。



1 碍子
2 電極
3 電極の隙間

指定スパークプラグ：
B7HS
電極の隙間：
0.6–0.7 mm

スパークプラグを取り付けるときは：
(1) スパークプラグの表面、ネジ部、取り付け面を清掃します。
(2) スパークプラグを取り付け、規定トルクで締め付けます。

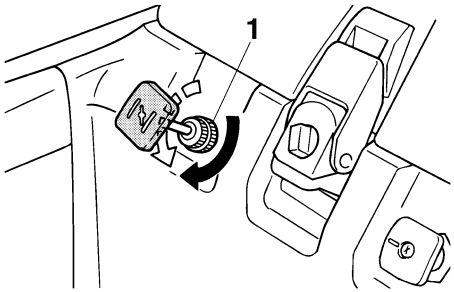
締め付けトルク：
スパークプラグ：
25.0 Nm (2.55 kgf-m)

要　点
スパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して締め込みます。プラグレンチを使用しての締め込み目安は、再取り付けの場合は 1/12 回転、新品の場合は 1/2 ～ 2/3 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。
(3) スパークプラグキャップ内部の汚れ、水分を拭き取ります。
(4) スパークプラグキャップをスパークプラグに突き当たるまで押し込み、元のように確実に取り付けます。
(5) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU34442

チョークケーブルの調整

チョークケーブルが正しく調整されているかを点検します。
チョークケーブルを調整するときは：
(1) チョークノブをいっぱいに引き出して放します。そのときにノブが戻らないことを確認します。
(2) 自然に戻る場合は調整ナットをわずかに締め込んでください。ノブを戻すときに固すぎる場合は調整ナットをわずかに緩めてください。



1 調整ナット

JJU34464

キャブレターの調整

JCJ00173

注　意

技術的な知識なしにキャブレターのセッティングを変更すると、エンジンの性能低下や損傷の原因となります。

キャブレターの調整は専門的な知識と経験のあるヤマハ取扱店に作業を依頼してください。
ただし、アイドリング回転数の調整はご自身で行なうことができます。

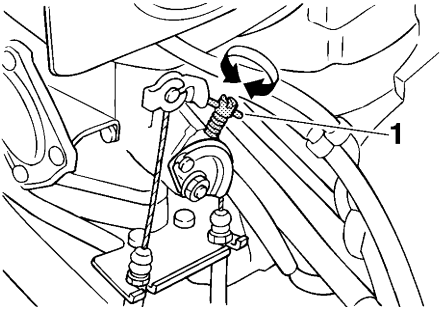
JJU34472

アイドリング回転数の調整

(1) マリンジェットを水面に浮かべます。
(2) エンジンを始動し1～2分ほど暖機運転を行ないます。計測用タコメーターを使用してアイドリング回転数を規定値に

調整します。

(3) アイドリング回転数を上げる場合はスロットルストップスクリューを時計方向に、下げる場合は反時計方向に回します。



1 スロットルストップスクリュー

アイドリング回転数：
1300 ±50 r/min

JJU34543

仕様諸元

艇体許容量 :
定員 :
1 名
寸法 :
全長（LOA）:
2240 mm
全幅（BOA）:
680 mm
全高（DOA）:
660 mm
乾燥重量 :
139 kg
性能 :
最大出力 :
48.5 kW / 6250 r/min (66 PS / 6250 r/min)
最大燃料消費量 :
29.0 L/h
航続時間（全開にて）:
0.62 hour
トローリング :
1300 ±50 r/min
エンジン :
エンジン型式種類 :
2 ストローク
気筒数 :
2
総排気量 :
701 cm^3
ボア × ストローク :
81.0 × 68.0 mm
圧縮比 :
7.2 : 1
潤滑方式 :
混合潤滑
冷却方式 :
水冷
始動方式 :
エレクトリックスタータ（電動）
点火方式 :
C.D.I.
スパークプラグ型式 (NGK):
B7HS
スパークプラグギャップ :
0.6–0.7 mm
バッテリ容量 :
12 V, 19 Ah
発電方式 :
フライホイールマグネトウ
ジェットユニット :
推進装置 :
ジェットポンプ
ジェットポンプ方式 :
軸流一段
インペラ回転方向 :
反時計回り
操舵角 （水平方向ノズル角）:
P1: 14.4+14.4°
P2: 17.3+17.3°
トリム角 (垂直方向ノズル角）:
5 °
燃料およびオイル :
使用燃料 :
無鉛レギュラーガソリン
推奨オイル :
ヤマルーブ 2 W または船外機オイル同等品
ガソリン / オイル混合比 :
50 :1
燃料タンク容量 :
18 L
タンクリザーブ（予備）容量 :
5.5 L

万一のときは

JJU34562

トラブルシューティング

万一故障などのトラブルが発生したときには、故障診断表に従って点検を行なってください。
もし故障原因が見つからない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU34576

故障診断表

推定原因とその処置内容を確認してから参照ページを見て処置してください。

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンが始動しない（スターターモーターが作動しない）	緊急エンジン停止スイッチ	ロックプレートが外れている	ロックプレートを取り付ける	18
	ヒューズ	溶断	配線を点検してヒューズを交換する	62
	バッテリー	容量低下	充電する	46
		端子接続不良	締め付ける	46
		端子の腐食	清掃または交換する	46
	始動回路	不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
エンジンが始動しない（スターターモーターは作動する）	燃料コック	“OFF” 位置になっている	燃料コックを “ON” 位置にする	19
	燃料	燃料が無い	給油する	25
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	スパークプラグ	汚損または不良	交換	55
	スパークプラグキャップ	取り付け不良	正しく取り付ける	55
	クランクケース	水が充満している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	63
	燃料フィルター	目詰まり、または水が混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	55
	チョーク	ノブが自動的に戻る	調整ナットを締め付ける	56

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンの回転にムラがある、あるいは停止する	燃料	燃料が無い	給油する	25
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		ガソリンとオイルの混合比が高い	適切な混合比の燃料を使用する	25
	チョーク	ノブが引いたままになっている	元の位置まで押し込む	20
	燃料フィルター	目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	55
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	スパークプラグ	汚損または不良	交換する	55
		プラグ熱価不適当	交換する	55
		電極の隙間が不適当	交換する	55
	スパークプラグキャップ	取り付け不良	正しく取り付ける	55
		損傷	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	電気配線	接続不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	キャブレター	調整不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		詰まり	ヤマハ取扱店で整備を受ける	56
エンジンの回転数が低すぎる、あるいは推進力が弱い	キャビテーション	ジェットインテークが目詰まりしている	清掃する	61
		インペラ損傷または摩耗	ヤマハ取扱店で整備を受ける	61
	エンジンのオーバーヒート	ジェットインテークが目詰まりしている	清掃する	61
	燃料フィルター	目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	55
	スパークプラグ	汚損または不良	交換する	55
		プラグ熱価不適当	交換する	55
		電極の隙間が不適当	交換する	55
	スパークプラグキャップ	取り付け不良	正しく取り付ける	55
	燃料	燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—

JJU34625

緊急時の対応方法

JJU34635

ジェットインテークとインペラの清掃

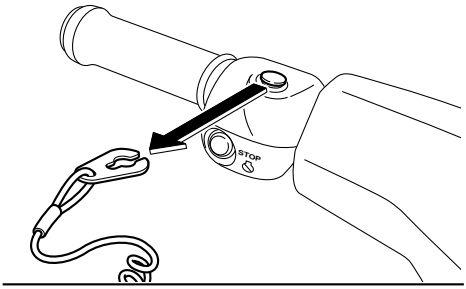
JWJ00783

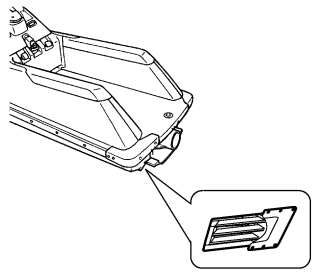
⚠警　告

ジェットインテークやインペラから異物を取り除く前には必ずエンジンを停止させて、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。ジェットポンプの回転部品に触れると重大な事故につながる恐れがあります。

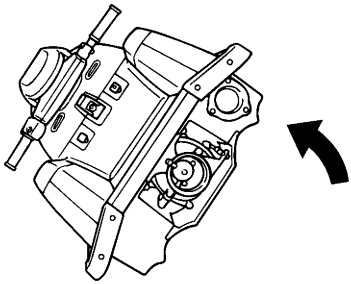
海藻やゴミなどがジェットインテークやインペラに詰まるとキャビテーションが発生し、エンジン回転数を上げても推進力は増大しません。このまま運転を続けるとエンジンがオーバーヒートして焼き付きを起す恐れがあります。***注意：*** **ジェットインテークに詰まった異物を取り除くまでは、トローリング速度を超えた速度で航走しないでください。** [JCJ00654]

海藻やゴミなどが目詰まりしていると思われるときは、マリンジェットを岸に引き上げてジェットインテークとインペラを点検してください。マリンジェットを岸に引き上げる前に必ずエンジンを停止させてください。





(1) 艇体に傷がつかないように、マリンジェットの下に適当なカーペットなどを敷いてください。図のようにマリンジェットを横にします。***注意：*** **マリンジェットは必ず左舷側（左側）を下にして回転させてください。マリンジェットを横にするときは、ハンドルバーが曲がったり破損したりしないように船首を持ってください。** [JCJ00662]



(2) ジェットインテーク、ドライブシャフト、インペラ、ジェットノズルの周囲から海藻やゴミを取り除きます。
取り除くことが困難な場合は、ヤマハ取

扱店にご相談ください。

JJU34642

ブースターケーブルの使用

バッテリーが電圧低下して使えなくなった場合は12 Vのバッテリーとブースターケーブルを使ってエンジンを始動することができます。

JJU34654

ブースターケーブルの接続方法

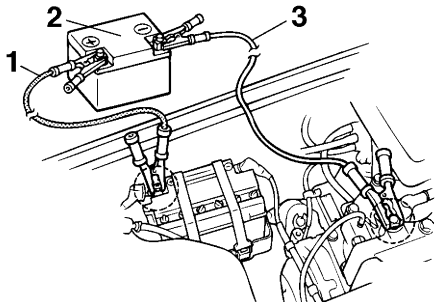
JWJ01251

⚠警　告

爆発や電装系統部品の故障を避けるため、以下の事項を守ってください。

- **バッテリーに接続する際、ブースターケーブルを逆に接続しないでください。**
- **（−）側ブースターケーブルの他端をマリンジェット側のバッテリーの（−）端子には接続しないでください。**
- **（+）側ブースターケーブルと（−）側ブースターケーブルを接触させないでください。**

(1) 赤色のブースターケーブルを使って両方のバッテリーの（+）端子を接続します。
(2) 黒色のブースターケーブルをブースターバッテリーの（−）端子に接続します。
(3) 黒色のブースターケーブルの他端をシリンダーヘッドの塗装していないボルトに接続します。



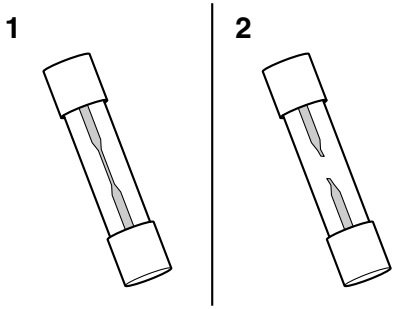
1 赤色ブースターケーブル
2 ブースターバッテリー
3 黒色ブースターケーブル

(4) エンジンを始動し、その後は逆の手順でブースターケーブルを取り外します。（エンジン始動については、18 ページを参照ください。）

JJU34676

ヒューズの交換

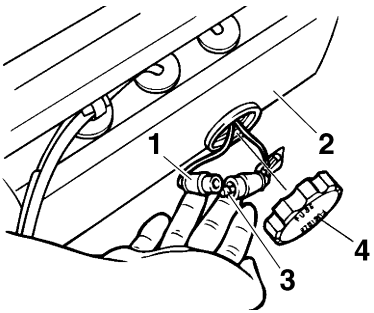
ヒューズが切れている場合は、正常なヒューズに交換します。



1 正常なヒューズ
2 切れているヒューズ

ヒューズを交換するときは：

(1) フードを取り外します。（フードの脱着方法については22ページを参照ください。）
(2) キャップを緩めて取り外します。
(3) 赤いリード線を引き電装ボックスの中からヒューズホルダーを引き出します。
(4) ヒューズホルダーを開け、ヒューズを同容量のものと交換します。**警告！ 容量の異なるヒューズは使用しないでください。容量が異なるヒューズを代用すると電気系統全体の破損や火災の原因となります。** [JWJ00803]



1 ヒューズホルダー
2 電装ボックス
3 ヒューズ
4 キャップ

ヒューズの容量：
バッテリヒューズ：
10 A

(5) ヒューズホルダーを電装ボックスの中に収めます。
(6) キャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。
(7) フードを元のように確実に取り付けます。

JJU34705

マリンジェットの曳航

JWJ00812

⚠警 告

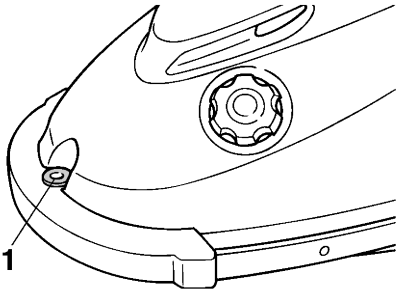
- **曳航する船舶の操船者は速度を最低限に保ち、曳航されているマリンジェットの操船者にとって危険となる周囲の船舶や障害物等を回避してください。**
- **曳航ロープは、曳航する船舶が減速したときにマリンジェットが追突しないように十分に長いものを使用してください。**

自力での航走ができなくなった場合は、マリンジェットを岸まで曳航してください。

曳航されるときは：

曳航ロープは、曳航する船舶とマリンジェットの船の長さを合せた 3 倍以上のロープを使用します。

(1) 曳航ロープを曳航されるマリンジェットのバウロープホールに確実に取り付けます。



1 バウロープホール

(2) 曳航されるマリンジェットに乗船します。乗船者はハンドルバーを握り体重をライディングトレイで支え、船首が水面より上に出るようにバランスを取ります。***注意：*** **曳航中は船首を必ず水面より上に出してください。エンジンルームへの浸水やエンジン内部への水の逆流により、エンジンが損傷する恐れがあります。** [JCJ01331]
(3) 曳航する船舶は8 km/h以下で航走します。***注意：*** **曳航は 8 km/h 以下で行なってください。エンジンルームへの浸水やエンジン内部への水の逆流により、エンジンが損傷する恐れがあります。** [JCJ01322]

JJU34735

水没時の処置

マリンジェットが水没した場合は、まずエンジンルーム内のビルジを排水します。その後すみやかにヤマハ取扱店で整備を受けてください。

水没したときは：

(1) マリンジェットを陸揚げし、フードを取り外します。
(2) 燃料コックを “OFF” にします。
(3) マリンジェットを横にして、エンジンルーム内のビルジを排水します。***注意：*** **フードを取り外した状態でマリンジェットを横にすると、ステアリングポールを破損する恐れがあります。必ず**

2 人で艇体を支え、ステアリングポールが破損しないようにしてください。 [JCJ00702]

(4) マリンジェットを元のように起こします。

(5) できるだけすみやかにヤマハ取扱店で整備を受けてください。***注意：*** **必ずヤマハ取扱店で整備を受けてください。そのまま放置するとエンジンの損傷が大きくなる恐れがあります。** [JCJ00792]

附録

JJU3586A

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、下記窓口にお問い合わせください。

ご購入店

エリア	営業所	TEL
北海道	ヤマキ船舶化工(株)　サービス課	0134-31-1135
東　北	ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　東北サービス課	022-727-5180
関　東	ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　東日本サービス課	045-775-2450
中　部	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　中部サービス課	0533-59-6188
関　西	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　西日本サービス課	0798-37-2004
中四国	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　中四国サービス課	082-532-8522
九　州	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　九州サービス課	092-885-6523

営業時間　月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日等を除く)　9:00～12:00　13:00～17:00

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室　〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

0120-090-819

オープン時間 月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く） **9:00～12:00　13:00～17:00**

索引

ア
アイドリング回転数の調整 56
浅瀬からの乗船と出航 42
イ
一般的に使用するマリンジェットの
航行区域 12
エ
エンジンオイル 25
エンジン外観の点検 32
エンジン始動スイッチ 18
エンジン停止スイッチ 18
エンジンの停止 38
エンジン番号 1
エンジンルームの点検 31
エンジン冷却経路の水洗 45
オ
オーバーヒート警告装置 21
カ
海藻が密生している場所での航走 44
各部の潤滑 48
各部の洗浄 48
各部の防錆 49
各部の名称と位置 16
ガソリンとエンジンオイルの混合 25
キ
キャブレターの調整 56
緊急エンジン停止コード（ランヤード）の
点検 34
緊急エンジン停止スイッチ 18
緊急時の対応方法 61
ク
グリスポイント 55
ケ
警告ラベル 4
コ
工具セット 51
航行区域 12
航走について 8
故障診断表 59
混合燃料の給油 25
シ
ジェットインテークとインペラの清掃 61
ジェットインテークの点検 34
ジェットノズル切れ角の調整 52
重要なラベル 3
出航 41
出航・乗船時のエンジンの始動 37
使用後のお手入れ 45
使用の前に 36
使用前点検チェックポイント 31
使用前点検チェックリスト 29
進水後の点検 35
進水前の点検 31
ス
水上でのビルジ排水 26
スイッチ類の作動点検 34
水没時の処置 63
スターンロープホール 23
ステアリングシステム 19
ステアリングシステムの作動点検 32
ステアリング操作荷重の調整 51
ステアリングポール 19
ステアリングポールの作動点検 33
スパークプラグの点検 55
スロットルレバー 19
スロットルレバーの作動点検 33
セ
製造番号 1
製造日付ラベル 2
整備と点検 51
船舶規則 12
船舶検査 12
ソ
操船機能 18
操船姿勢 36
操船するときは 36
操船について 9
操船の前に 36
装備品 22
その他のラベル 6
チ
注意事項について 10
チョークケーブルの調整 56
チョークノブ 20
長期保管 48
テ
定期点検表 54
艇体外観の点検 34
艇体各部の水洗 46
艇体識別番号 1
艇体番号 1
転覆したときには 43
ト
トラブルシューティング 59
トレーラーでの運搬 27
ナ
慣らし運転 28

索引

ネ
燃料 25
燃料系統の点検 31
燃料コック 19
燃料残量の点検 31
燃料とオイルについて 25
燃料フィルターの点検 55
ハ
バウロープホール 23
バッテリーのお手入れ 46
バッテリーの点検 32
ヒ
ヒューズの交換 62
ビルジの点検 32
ビルジの排水 26
フ
ブースターケーブルの使用 62
ブースターケーブルの接続方法 62
フード 22
フード上側物入れ 24
フード上側物入れの点検 35
フード裏物入れの点検 34
フード裏物入れ（ポーチ） 23
フードの点検 35
深いところでの乗船と出航 42
ホ
法定備品 12
法定備品の点検 34
他の遵守事項 14
母船に搭載して使用するマリンジェットの
　航行区域 13
マ
マリンジェットから離れるとき 38
マリンジェットに関する用語 15
マリンジェットの曳航 63
マリンジェットの航走 39
マリンジェットの使用にあたり 7
マリンジェットの進水 37
マリンジェットの旋回 39
マリンジェットの着岸 44
マリンジェットの停船 40
マリンジェットの特性について 11
ミ
水分離器 21
水分離器の点検 31
リ
陸揚げしたときには 44
レ
冷却水点検孔 20
冷却水点検孔の点検 35

JJU35872

不許複製

名称： マリンジェット Super Jet
取扱説明書
部品番号： F4D-28199-01
発行： ヤマハ発動機株式会社
2015 年 9 月

Printed in Japan
October 2015–0.1 × 1

再生紙を使用しています。